2024 年度　学部授業アンケート分析結果

本資料は、2024 年度（春学期・秋学期）に学部学生を対象に行われた授業アンケートにおける「学部共通設問」の回答結果を、学生個人の成績評価や年間 GPA、入学試験区分等と組み合わせて集計・分析を行った結果を記したものです。なお、学生の情報は分析を行う段階からすべてマスキングされ、個人が特定できないものとしています。

中央大学 FD・SD 推進委員会
中央大学教育力研究開発機構

2024年度授業アンケート分析報告書

2025年6月9日
教育力研究開発機構 専任研究員／国際経営学部 特任助教
佐々木 孝輔

1. はじめに

本報告は、2025年4月までに学事部企画課より提供いただいた、学部学生を対象にした授業アンケート（以下、「授業アンケート」と言います）の結果ならびに学生の成績情報を分析した結果のサマリーです。授業アンケートは、2024年度春学期および秋学期に実施された講義を受講した学生を対象に実施されました。また、本授業アンケートは各学期、学生の成績確定前に実施されました。

1.1 分析の観点について

本報告では主に次の項目について、要素間を比較・分析した結果を報告します。

- 成績上位者と下位者の要因分析
- 授業タイプ（アクティブ・ラーニングの実施有無／オンライン・対面授業／授業時限）と学生の成長実感／GPAの関係
- 学内リソースによる学習支援／学習サポートの制度利用の有無と授業満足度の関係

1.2 収集したデータについて

収集したデータは以下の通りです。

- 授業に紐づくデータ
    - 授業ごとに実施した授業アンケートの回答（選択肢の設問14問および自由記述の設問4問、全18問）
    - 授業アンケートを実施した授業に関するメタデータ
        - 授業時限（1限〜6限）
        - 開講曜日
        - 履修者数（システム上で履修登録を行った学生数であり、実際の受講者数とは異なる可能性があります）
    - 2024年度在学生アンケートの一部設問の回答（詳細は学習支援制度の利用状況と授業アンケート結果の関係節をご参照ください）
    - 学生の成績
        - S,A,B,C,E,Fの6段階で、単位合格はC以上です。なお、2021年度以前入学生と2022年度以降入学生では成績評語が異なります。本分析では2022年度以降入学生の成績評語（S,A,B,C,E,F）を使用し、2021年度以前入学生に適用されている成績評語（A,B,C,D,E,F）は対応する評語に置換した上で分析に使用しました
    - 授業タイプの別

        - 講義
        - 実験・製図
        - 実習
        - 演習
        - 実技
        - 外国語
        - 卒論科目
    - 授業で実施したアクティブラーニングの有無（シラバス上に登録されている情報を取得した情報であり、実際に授業で実施された活動とは異なる可能性があります。また1つの授業に複数のアクティブラーニングが設定されていることがあります）
        - PBL
        - 反転授業
        - ディスカッション・ディベート
        - グループワーク
        - プレゼンテーション
        - 実習・フィールドワーク
        - その他
        - 未実施
    - 遠隔授業科目かどうかの別（各教授会で選定した遠隔授業科目。遠隔授業科目とは、全授業回数のうち半数を超える回が遠隔で行われ、かつ卒業要件に算入できる科目を指します）
    - 必修授業であるかの別（必修授業に係る分析は1年生のみを対象としています）
- 学生個人に紐づくデータ
    - 2024年度のGPA
    - 入試区分
        - 一般・センター・共通テスト・英語外部検定利用
        - 指定校推薦入試
        - スポーツ推薦
        - 附属高校からの進学
        - 特別入試等その他

上記のデータはいずれも、学生を示す仮名加工情報に紐づけて取得しました。ただし、分析者（佐々木）は特定の個人を識別できない状態で取得しています。

授業に紐づくデータのうち授業アンケートの回答について、アンケートは授業ごとに実施していたため、1人の学生は、自身が受講した複数の授業に対しそれぞれ授業アンケートに回答できました。また、それぞれの授業に対し学生の成績を紐づけて収集しました。

また学生個人に紐づくデータは、学生を示す仮名加工情報に紐づけて収集しました。

これらのデータから、学生の特定の授業に対するアンケート結果と成績、および当該学生の2024年度GPA、入試カテゴリ（1年生のみ）、学年が分かる状態で分析を行いました。

本報告書で報告する分析では、原則として授業単位で分析しています（1レコードが［1学生・1授業］のデータ）。また、各グラフでは有効回答数Nを示しています。この有効回答数は取得したデータのうち、分析に際し必要な情報が全て欠損なく得られたデータの数を示しています。

1.3 授業アンケートの設問項目について

実施した授業アンケートでは、全学部共通で以下の表に示す18項目について質問しました。回答方式欄に「リッカート尺度」と記載されている設問はすべて、回答の選択肢が7件法のリッカート尺度（1. 全くそう思わない／2. そう思わない／3. あまりそう思わない／4. どちらともいえない／5. ややそう思う／6. そう思う／7. 非常にそう思う）であることを示しています。またリッカート尺度以外の選択肢をもつ設問については、個別に回答の選択肢を記載しています。

表：授業アンケートの設問一覧

設問番号	設問項目	回答方式
1	講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。	リッカート尺度
2	能動的に参加したくなるような授業であった。	リッカート尺度
3	この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。	リッカート尺度
4	この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。	リッカート尺度
5	担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。	リッカート尺度
6	担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。	リッカート尺度
7	教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。	リッカート尺度
8	担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。	リッカート尺度
9	この授業に対する出席率について。	1. 8回以上欠席した 2. 6〜7回欠席した 3. 4〜5回欠席した 4. 3回欠席した 5. 2回欠席した 6. 1回欠席した 7. 全て出席した
10	1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。	1. 全くしなかった 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上5時間未

設問番号	設問項目	回答方式
		満 7. 5時間以上
11	この授業は総合的に満足できたか。	リッカート尺度
12	この授業の進行速度について。	1. 非常に速い 2. 速い 3. やや速い 4. ちょうどよい 5. やや遅い 6. 遅い 7. 非常に遅い
13	課題（宿題、レポートの提出、予習・復習など）の量について。	1. 非常に少ない 2. 少ない 3. やや少ない 4. 適切 5. やや多い 6. 多い 7. 非常に多い
14	全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、（）内の数値をお答えください。)	1. 0回 2. 1〜3回（1〜6回） 3. 4〜7回（7〜14回） 4. 8〜13回（15〜27回） 5. すべての授業
15	この授業に関して、良かったと思う点を記載して下さい。	自由記述
16	この授業に関して、工夫・改善してほしいと思う点を記載して下さい。	自由記述
17	【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、良かったと思う点を記載してください。	自由記述
18	【この授業について1回以上遠隔授業形式で受講したと回答した方のみ回答してください】この授業で担当教員が利活用したオンラインコンテンツ（資料、オンデマンド動画、Webexなどの双方向型ツールの使い方、manabaの使い方など）について、工夫・改善してほしいと思う点を記載してください。	自由記述

なお、本資料中には随所に「リッカート尺度で回答する設問」と記載されている箇所がありますが、これは上記の表において回答方式欄に「リッカート尺度」と記載されている設問1〜8および11を指しています。

1.4 本資料に掲載するグラフについて

各グラフには左上に「設問1」のように「設問[X]」という形で設問番号が記載されています。グラフ上の設問文は一部省略されているものがあるため、実際に学生に提示された設問文については前述のアンケートの設問一覧をご参照ください。加えて、特に断りがない場合は、グラフが指し示すデータは全学部・全学年のデータであることを、予めご承知おきください。

また、一部のグラフには大学IRダッシュボードサービスIRQuAを利用しています。権限をお持ちの職員の皆様もご確認いただけるグラフですので、お手元の端末にてご確認ください。

1.5 自由記述の分析について

設問15〜18の自由記述設問の分析には、教育力研究開発機構における生成系AI利用ルールに則り、外部サーバへのデータのアップロードを伴わない非クラウド型大規模言語モデル（一般にローカルLLMと呼ばれますが、本報告書中ではLLMと記載します）を利用しています。本報告書中でのLLMを用いた分析では、自由記述の回答内容から、出現頻度が多いトピックを抽出し要約するようプロンプトを作成しました。使用したLLM、パラメータ、プロンプトの詳細につきましては附録に記載していますので、そちらをご参照ください。

ただし、ローカルLLMはクラウド型LLMとは異なり性能が抑えめであることから、プロンプトに対する適切な処理がなされなかったり、正常に処理が終了しなかったりする現象が数回程度発生しました。そのため分析対象のデータの一部は、LLMによる処理が正常に行われていない場合がありますこと、ご承知おきください。

また本資料中に掲載している自由記述の回答は、特に断りがない限り回答原文の通りです。ただし回答が長い場合は、必要に応じて一部抜粋の上引用しているものもあります。

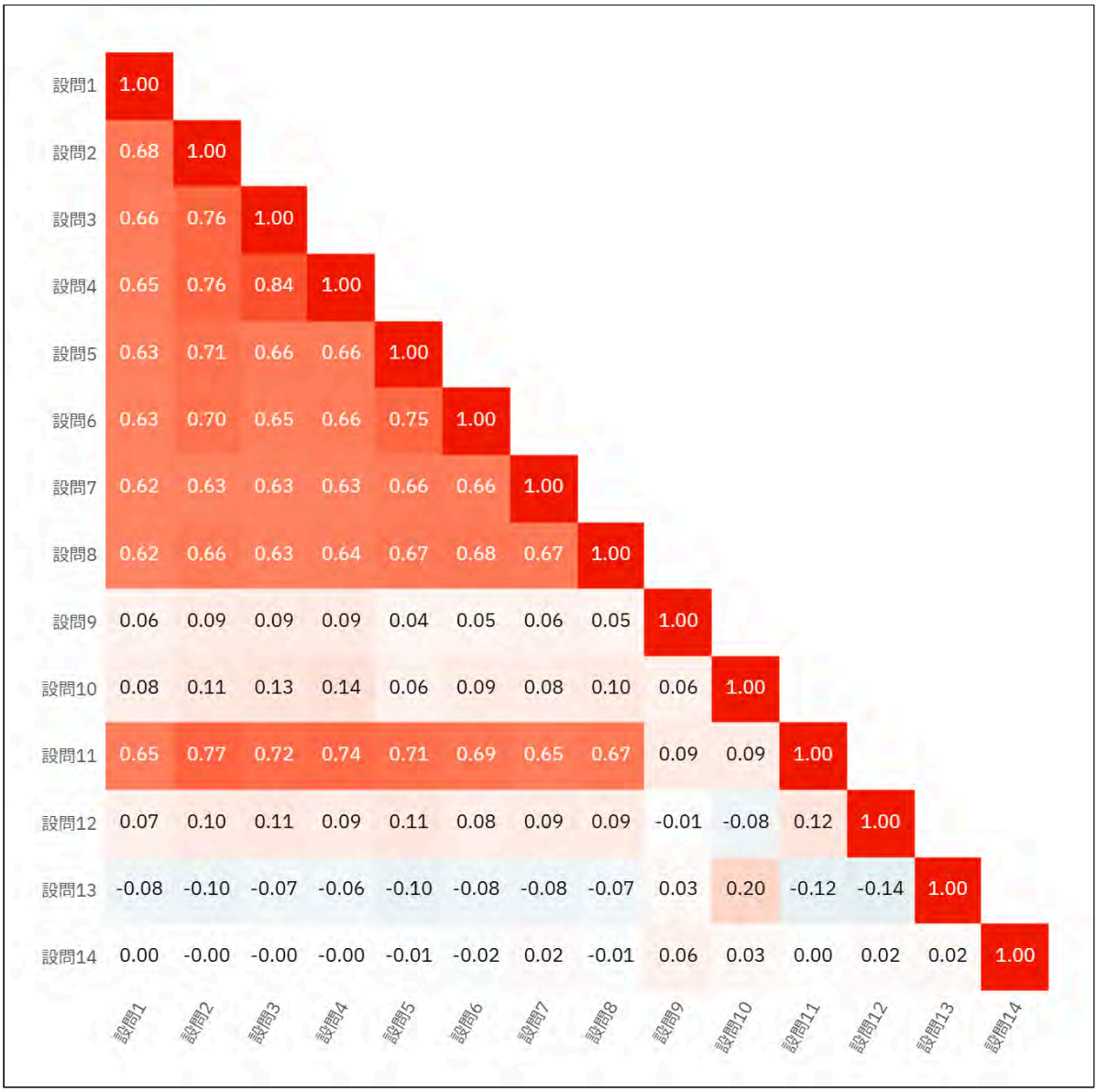
2. 分析結果

本年度の授業アンケートの結果を分析した結果を観点別に報告します。

なお本資料中では、回答者を成績で群分けして分析を行っている項目がいくつかあります。この場合、科目ごと成績がSだった学生を成績上位者、成績がC以下だった学生を成績下位者と定義しています。

2.1 全体の傾向

全体の傾向として、リッカート尺度で回答する設問では回答番号が大きくなる（より「そう思う」に近くなる）ほど、他のリッカート尺度で回答する設問でも回答番号が大きくなる傾向が見られました（下図はスピアマンの順位相関係数を求めた図）。これはリッカート尺度で回答する設問において、学生が肯定的な回答をする場合、他のリッカート尺度で回答する設問でも肯定的な回答をする傾向があることを示しています。



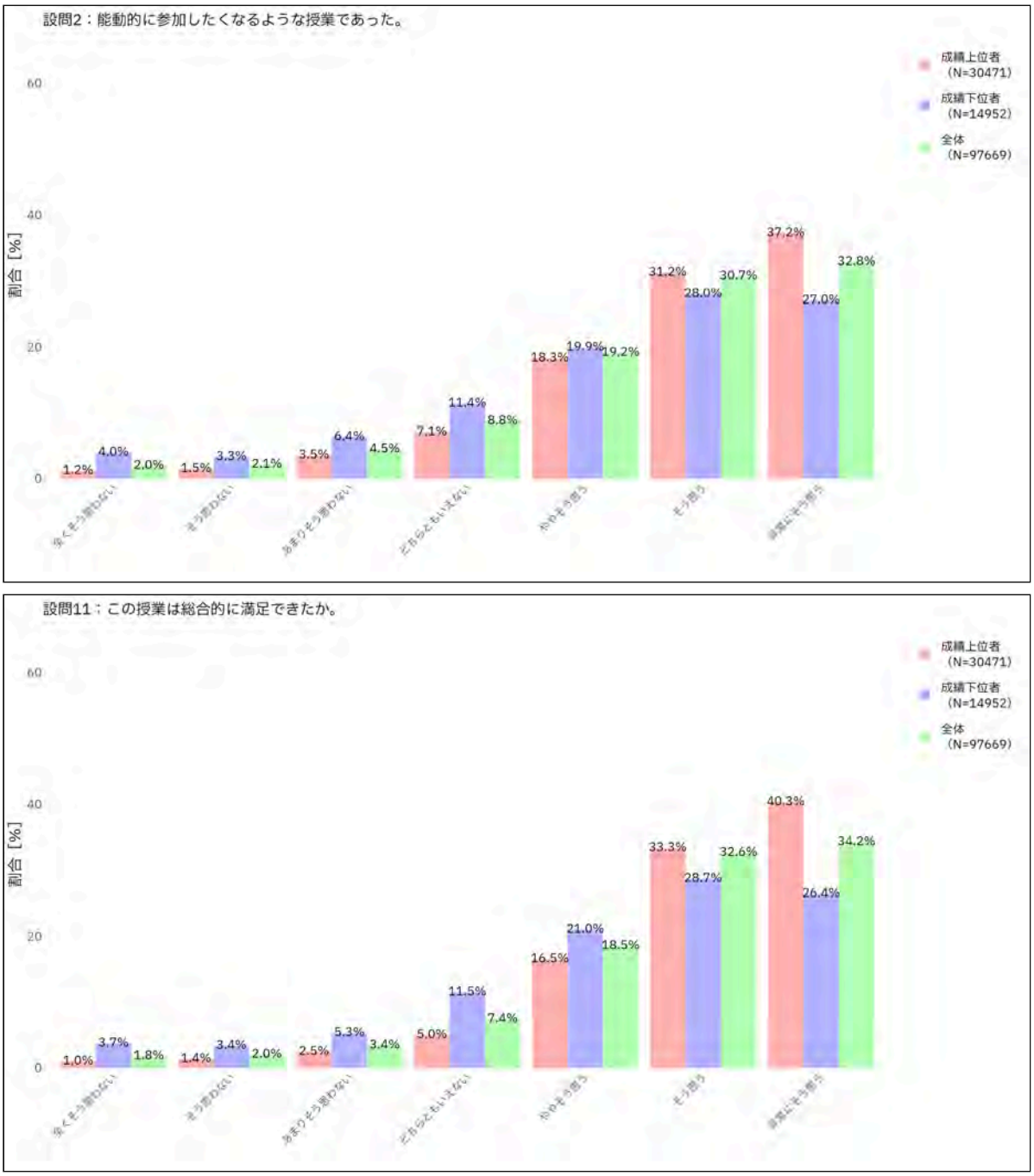
図：設問1〜14のスピアマンの順位相関係数。表示されている数値が-1に近いほど負の相関（片方の回答が肯定的だと、もう片方が否定的）、1に近いほど正の相関（片方の回答が肯定的だと、もう片方も肯定的）がある2設問であることを示す

特に設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）と設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）は、学生のその授業における成長実感に関する設問ですが、相関係数は0.8を超える高い値を示しており、両者が強く関連していることがわかります。

2.1.1 成績上位者／下位者と授業アンケート

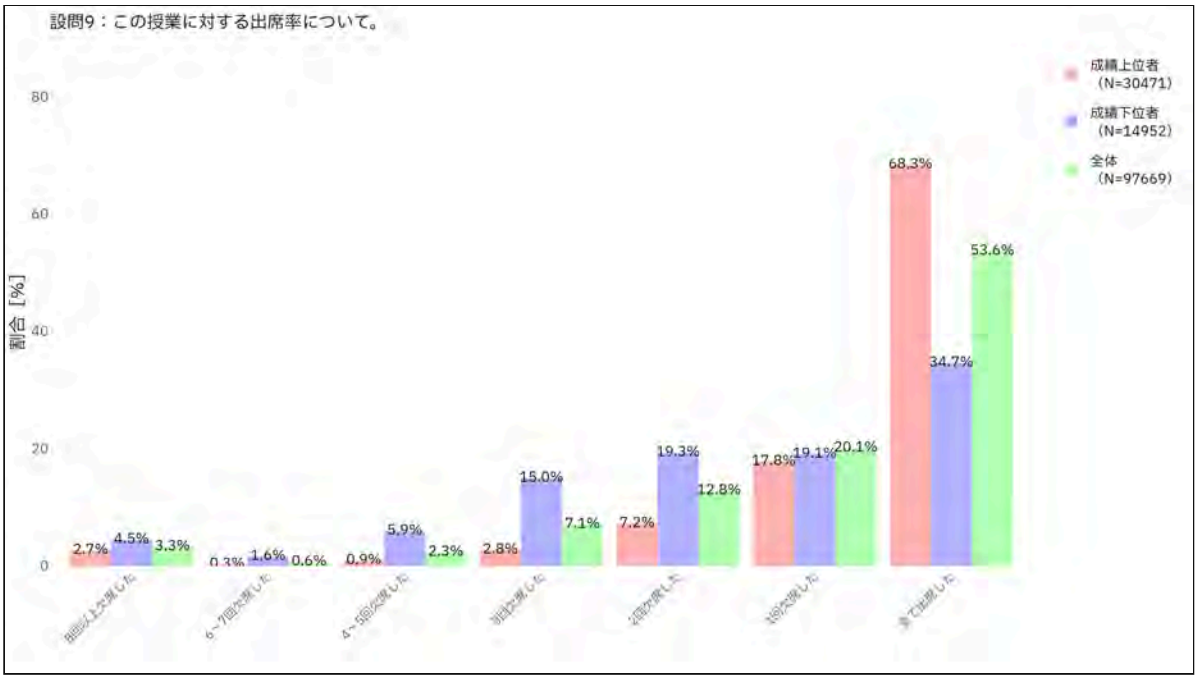
過年度の授業アンケート分析では、特にリッカート尺度で回答する設問において、成績上位者の方が成績下位者より「非常にそう思う」の回答割合が高い傾向が見られましたが、本年度の授業アンケートでも同様の傾向が見られました。一例として、設問2（能動的に参加したくなるような授業であった）と設問11（この授業

は総合的に満足できたか）について、回答分布を示すグラフを示します。下図に示すように、「非常にそう思う」の回答割合は成績上位者の方が高いことがうかがえます。



図：設問2と設問11を例に取った成績上位者と下位者の回答分布

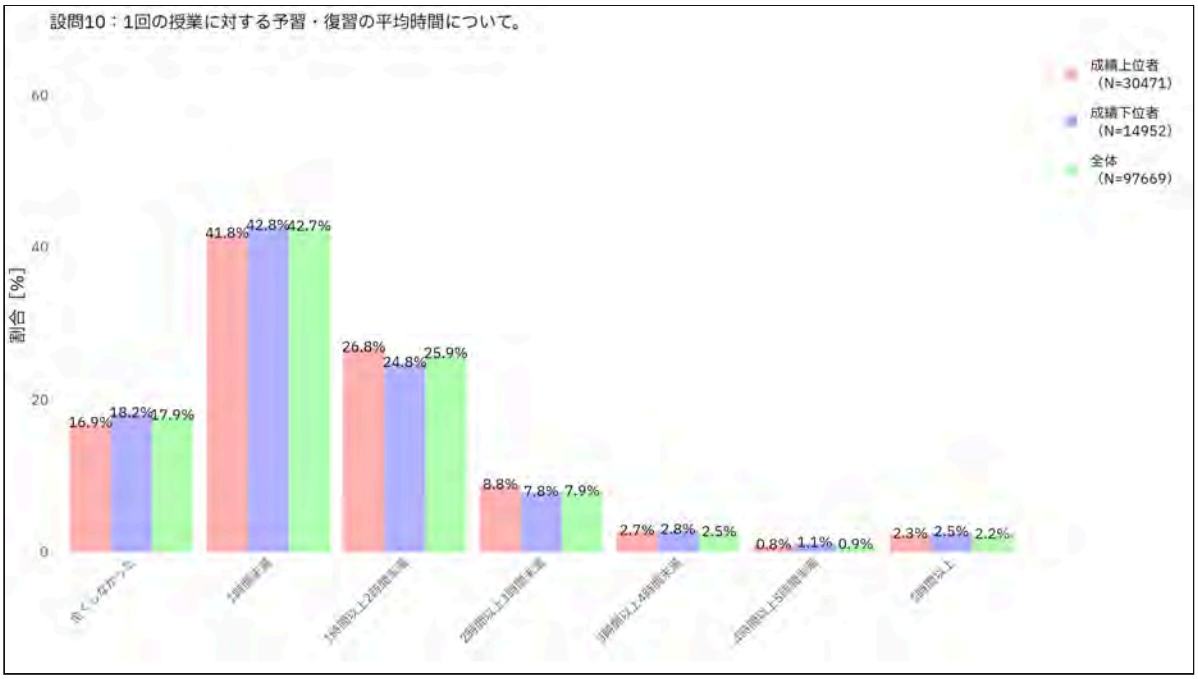
同じく過年度と同様の傾向が見られたものとして、設問9（この授業に対する出席率について）についても、成績上位者の方が「全て出席した」の回答割合が高く、成績下位者ほど欠席回数が多いという様子が見受けられました。



図：成績上位者と下位者の出席率の回答分布

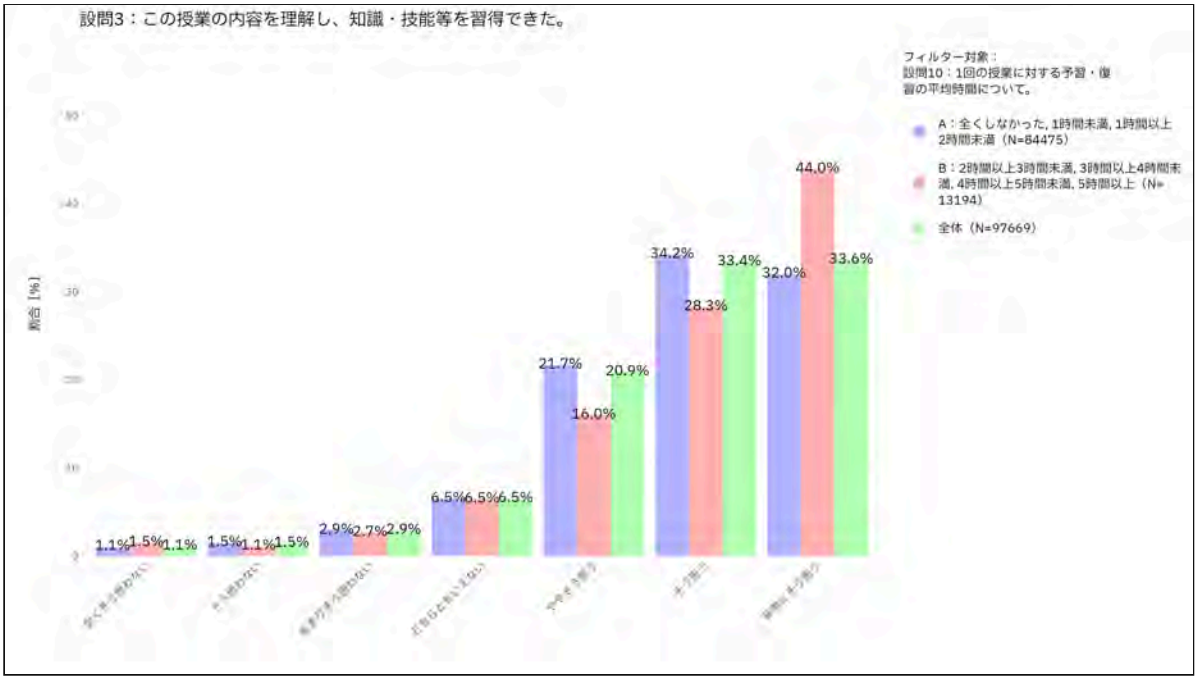
2.1.2 授業外学習時間

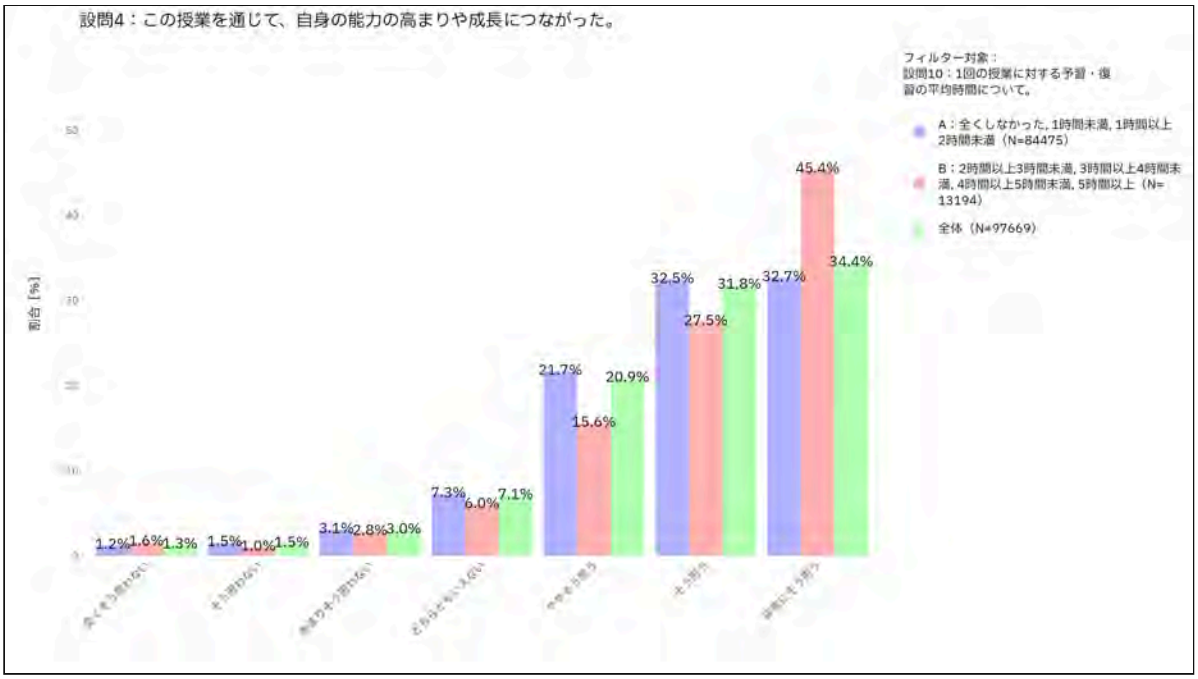
設問10（1回の授業に対する予習・復習の平均時間について）については、年度によって成績下位者の方が長時間勉強している様子がうかがえたこともありましたが、2024年度の授業アンケートではほぼ差が見られませんでした。ただし大学設置基準（第二十一条）では、授業1単位につき45時間の学修を必要としているため、概ね授業外学習には週に1.5〜2時間（2単位授業では週に3〜4時間）かける必要があるにも関わらず、設問10の回答では「1時間以上2時間未満」以下の回答割合が合わせて85%程度と高く、3時間以上授業外学習を行っている学生は全体の6%ほどしかいません。**この傾向は過去3か年にわたって是正されておらず**、大学設置基準に照らすと十分な予習・復習が行われていない可能性があることは留意すべき点です。



図：成績上位者と下位者の予習・復習時間の回答分布

また授業外の予習・復習時間において、「2時間未満」以下の回答を行った学生（A群）と、「2時間以上」以上の回答を行った学生（B群）に分けて、成長実感に関する設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）と設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）の回答分布を比較しました。下図に見てとれるように、授業外学習時間が長い学生の方が「非常にそう思う」の回答割合が高い傾向が見られました。上図に示すように、授業外学習時間と成績には大きな関係は見られていませんが、長い時間勉強に費やした方が高い成長実感を得られる傾向があることがわかります。学習者本人にとっては、効率はともかく、**内容という点では適切に学習を行えていた可能性**があります。



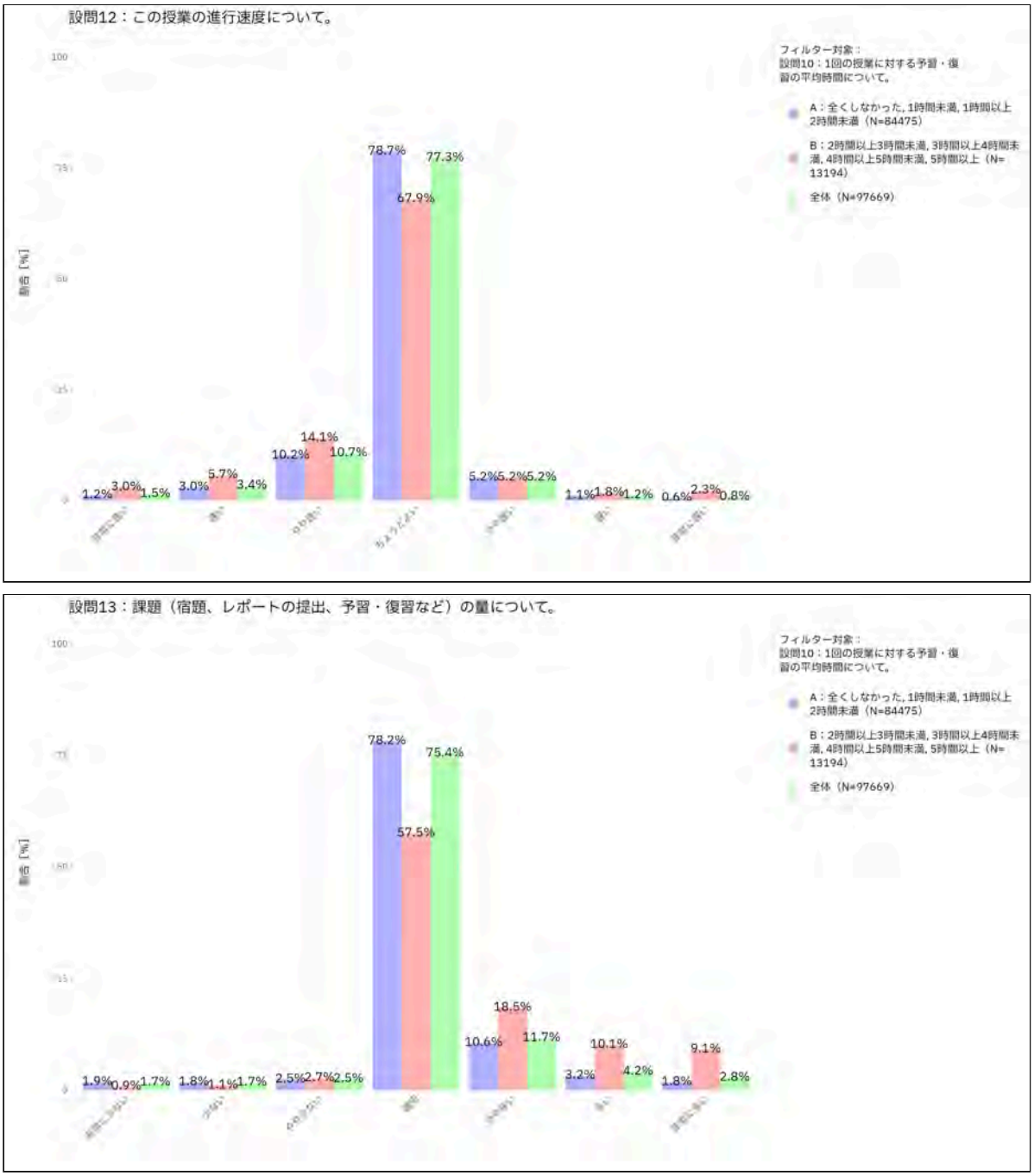


図：授業外学習時間の長さと成長実感（上：設問3／下：設問4）の関係

また同様に、授業外学習時間のA群とB群で、設問12（この授業の進行速度について）と設問13（課題の量について）の回答分布を比較しました。授業外学習時間が長い学生の方が「授業が速い」「課題の量が多い」と回答する割合が高い傾向が見られました。授業外学習時間が長い学生は「授業が速い／課題が多いから、授業外学習を多く行い、その結果成長実感が高まった」、授業外学習時間が短い学生は「授業が速いと感じない／課題が多いと感じないから、授業外で学習をあまり行わず、その結果成長実感を感じにくかった」という可能性がそれぞれ考えられます。

ただし、予習・復習時間の回答分布から見られるように、授業外学習時間の長短で成績に大きな差が見られませんでした。これらの事象を総合すると、**授業外学習時間が短い学生は、何らかの理由で要領よく授業を受けていた**可能性、そして、**学生の授業外の頑張りが成績に反映されにくくなっていた**可能性が考えられます。前者は授業外学習時間が短いために成長実感が高まらないことから、授業外学習に対する内発的動機づけに、後者は授業外学習時間が長くても成績に反映されないことから、授業外学習に対する外発的動機づけに、それぞれ影響し得ます。

（授業外）学習に対する動機づけは、内発的・外発的のバランスが重要であり、それぞれの動機を誘発する授業運営が必要です。内発的動機づけには、学生の知的好奇心をくすぐる授業を展開すること、外発的動機づけには授業（内）外の頑張りを適切に評価することが大切です。



図：（上）授業外学習時間の長さと授業の進行速度（設問12）の関係／（下）授業外学習時間の長さと課題の量（設問13）の関係

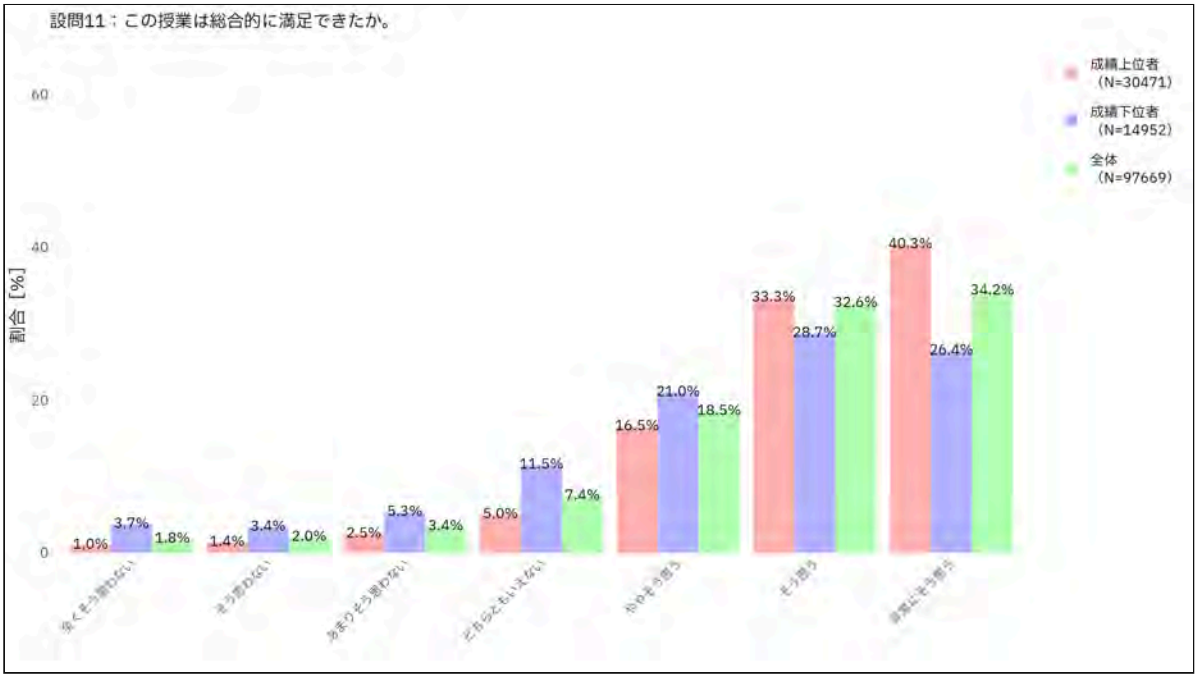
また昨今は生成系AIを利用する学生も多くいると考えられ、今後、学習時間や成長実感の関係性に対して、生成系AIの利用状況にもあわせて注目していく必要があるかもしれません。

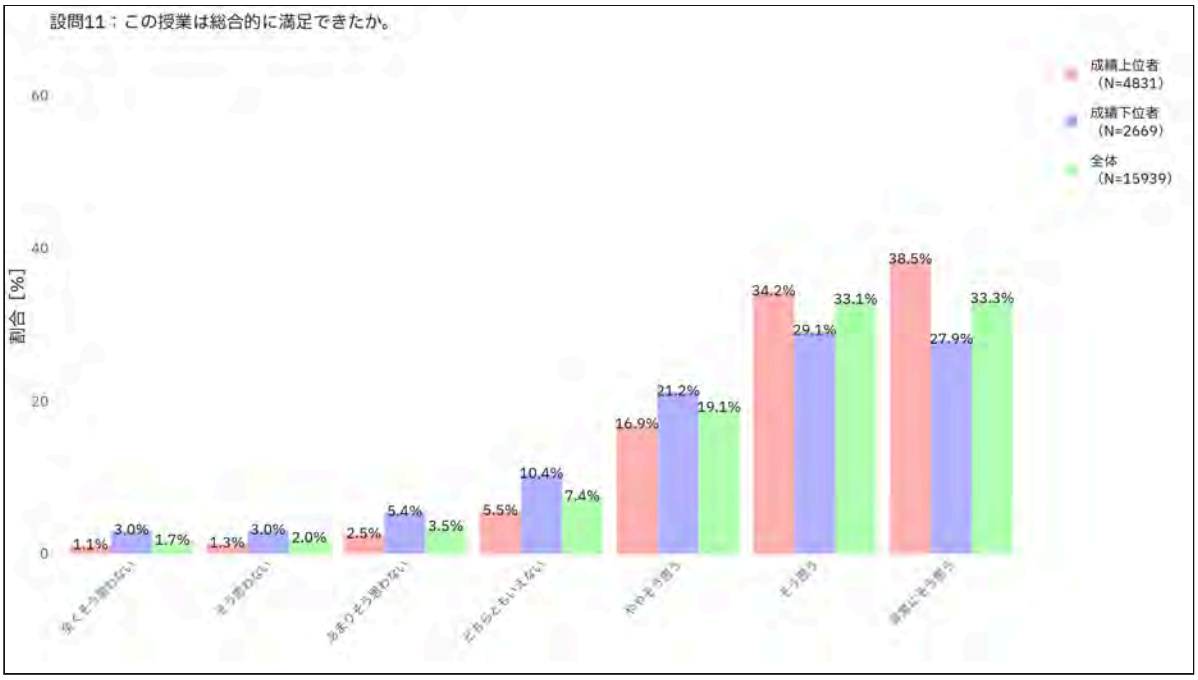
なお設問16（この授業に関して、工夫・改善してほしいと思う点を記載して下さい）において「AI」の語句を含む自由記述回答は数十件（設問16の回答総数の0.3%程度）にとどまっており、まだこのような問題が明るみに出ている様子はありません。参考までに、どのような回答があったか下記に記載します。

- プログラミングに取り組む際に授業で扱ったものよりも応用のものが課題に出ている気がしました。まったくわからずパイソンのAIに聞きっぱなしであまり自分の力になったような気がしません。
- 講師側が翻訳ツールや生成AIを使わないようにと指示しても隠れて使用していた生徒が数名おり、彼らは実際に高い評価を受けていた。
- ちゃんとプリントを記入しているのにAIでやったと勝手に判断され、マイナスポイントをつけられた。
- 生成AIを使用していたクラスメイトの方が、生成AIを用いずにレポートを作成した自分より成績が上位だった。

2.1.3 1限の授業と授業満足度

過去の授業アンケート分析報告会においていただいた質問に「授業が1限にあるから満足度が下がるのではないか」というものがありました。今回の分析では、授業の開講時限をデータとして企画課より提供いただきましたので、1限の授業と授業満足度の関係についても分析を行いました。成績に依らず「非常にそう思う」の回答割合が僅かに低下（「全体」群で、データ全体だと34.2%、1限の授業だと33.3%）していますが、全体的に大きな差はないようです。そのため授業の満足度が下がる理由に、「1限の授業である」ことは挙げられにくいと考えられます。

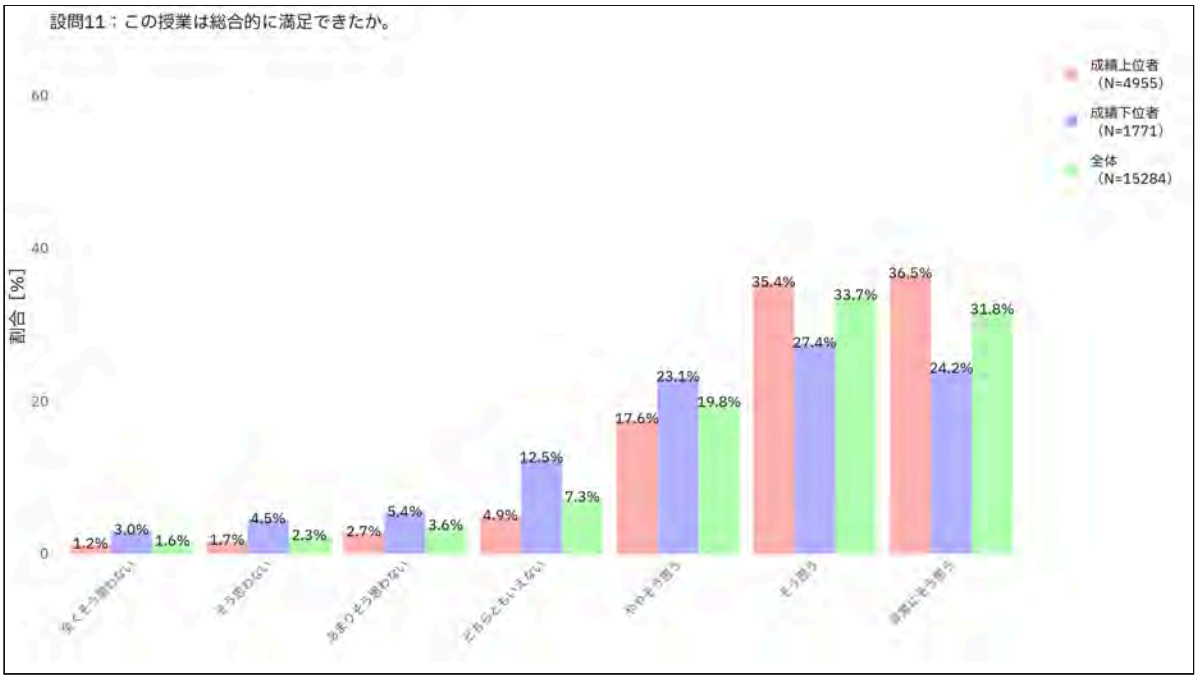


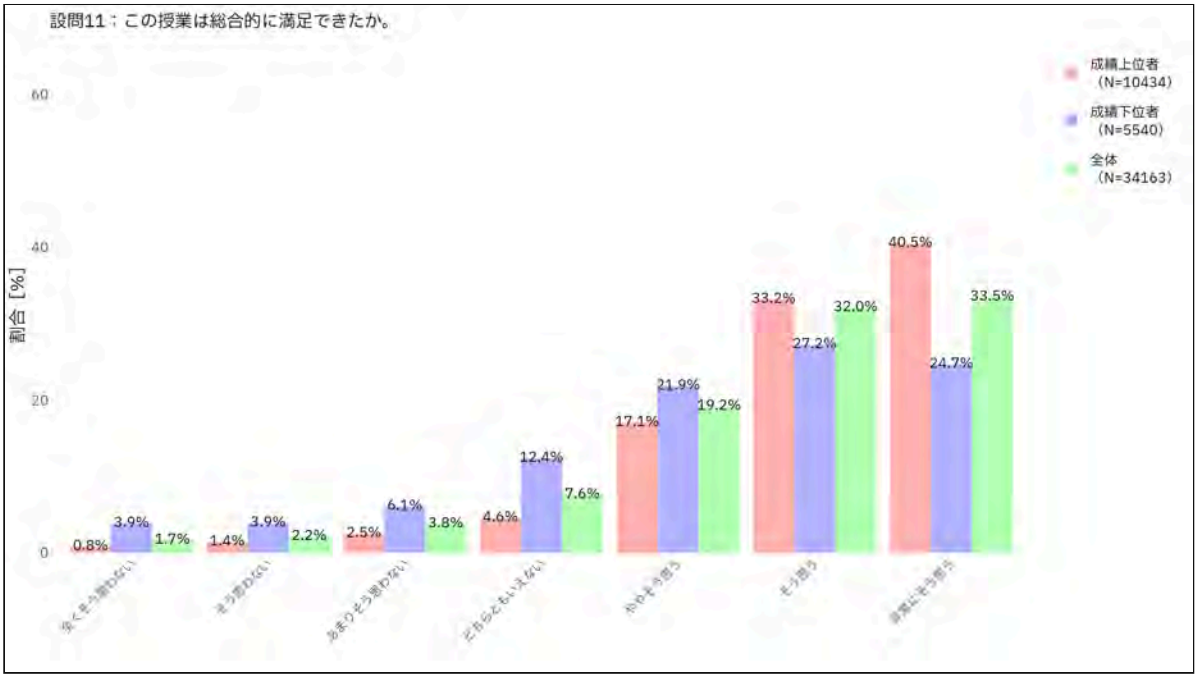


図：（上）全体の設問11の回答分布（再掲）／（下）1限の授業における設問11の回答分布

2.1.4 必修授業と授業満足度

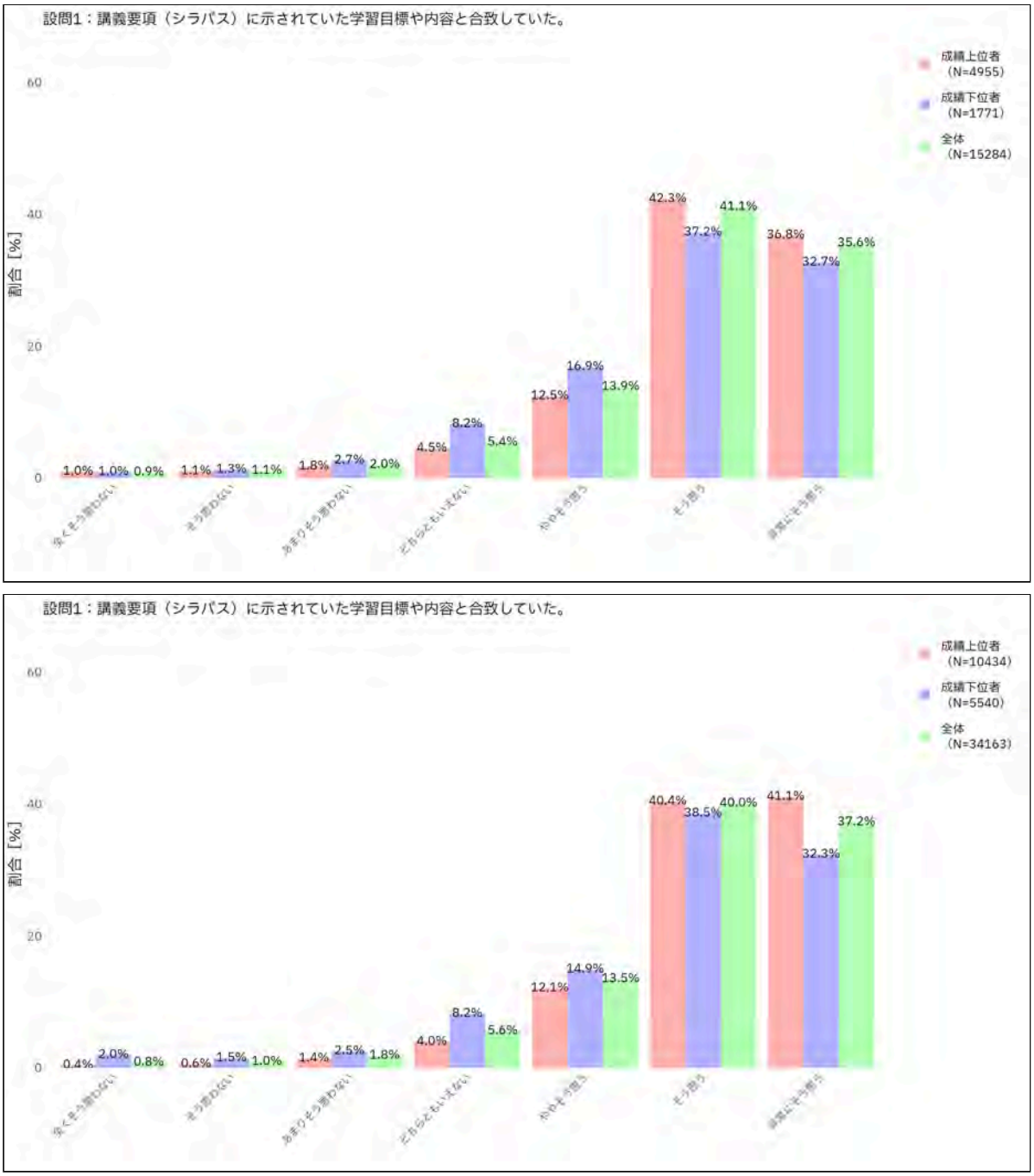
同じく過去の授業アンケート分析報告会で「必修授業だと満足度はどう変わるのか」という質問をいただきました。今回の分析では、1年生のみを対象に当該授業が必修（選択必修を含む）か選択授業かというデータとして企画課より提供いただきましたので、必修授業であるかどうかと授業満足度の関係についても分析を行いました。設問11（この授業は総合的に満足できたか）に注目してみると、必修授業の方が選択授業より「非常にそう思う」の回答割合が低い（「全体」群で、必修授業だと31.8%／選択授業だと33.5%）傾向が見られました。





*図：（上）**必修**授業における設問11の回答分布／（下）**選択**授業における設問11の回答分布*

必修授業か選択授業かの別による違いは他にも、設問1（講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた）や設問7（教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った）、成長実感に関する設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）や設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）を含め、リッカート尺度で回答する設問は全体的に必修授業の方が「非常にそう思う」の回答割合が低い傾向が見られました。下図はこの一例として、設問1の回答分布を示しています。特に成績上位者の方が、必修授業においては「非常にそう思う」の回答割合が低い傾向が見られました。



*図：（上）**必修**授業における設問1の回答分布／（下）**選択**授業における設問1の回答分布*

参考情報として、必修授業を受講した学生からは自由記述の設問16（工夫・改善してほしいと思う点）において、シラバスに関する回答を一部示します。

- 出席点と授業後の質問に対する回答が成績にも反映されているなら、シラバスにも詳しく書いてほしい。
- シラバスと授業内容や評価基準（授業中に課題が出るとあるが、実際は出ていない）が一致していないので、改善してくださると助かります。

- シラバスに使用言語を日本語と中国語と書いてあり、中国語を勉強したいと思って応募したが、使用言語が日本語のみだった。
- シラバスでは英語になっていたので期待していたが、ほとんど日本語だった。
- シラバスの内容を守ってほしい。
- 毎回の授業内容がシラバスに示されているが従ったことがない
- シラバスに記載されている内容と異なっていた。

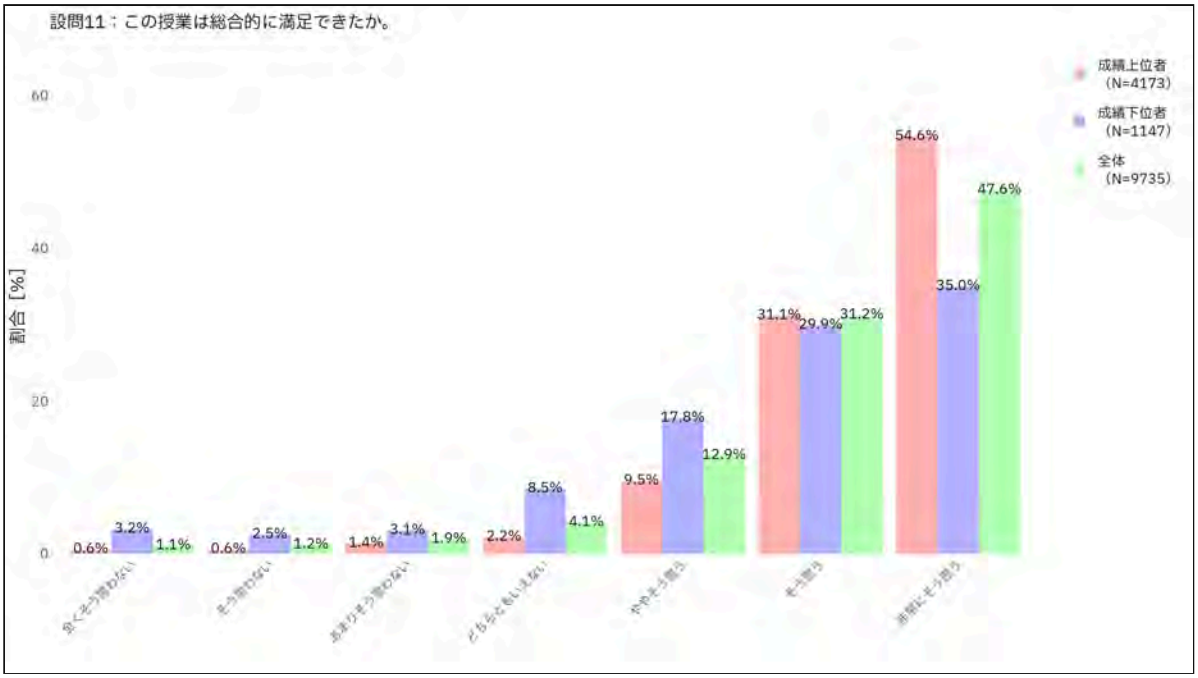
これらのようなシラバスに関する自由記述は、1年生の選択授業受講者からもあったことから、必修授業だから取り立ててシラバスが悪いということを主張するものではありません。しかし、大学に入学して1年目の授業において「シラバスがおかしい」と感じる学生が多いことはシラバスの信用性にも関わることに繋がります。教員にとっては1年に1回しか触れないものですが、「毎年同じ授業内容だから……」となおざりにせず、**シラバスの点検**にも目を向けてみると授業改善に役立つかもしれません。

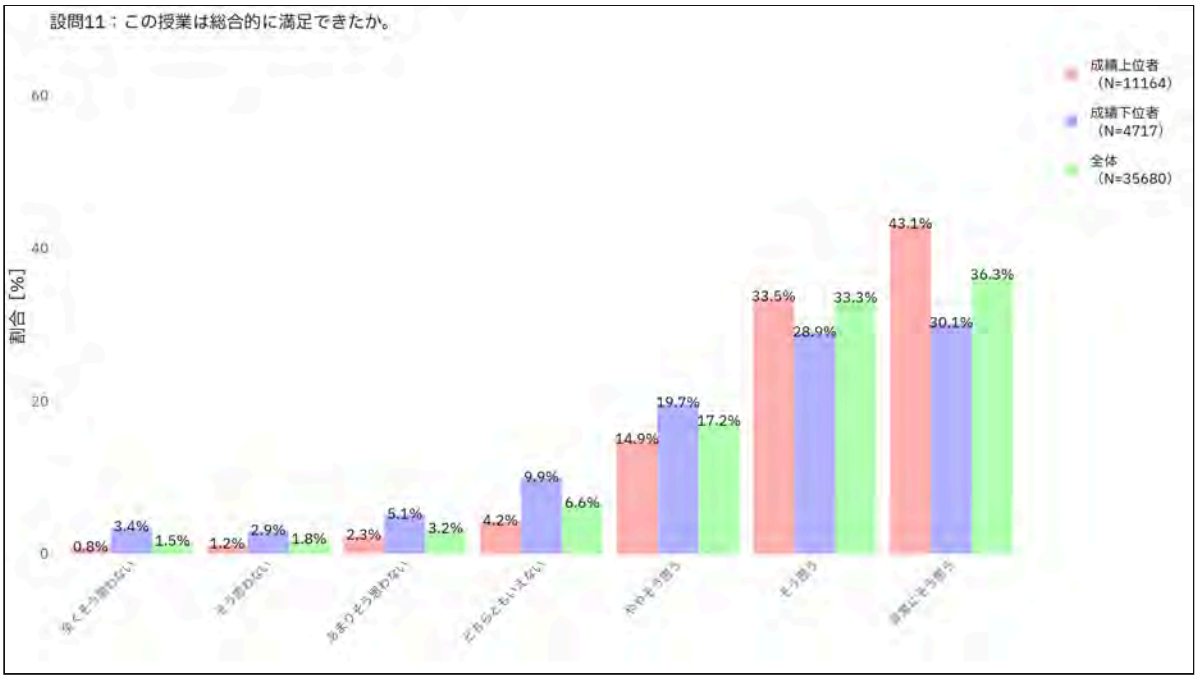
2.2 授業の履修者数に基づく分析

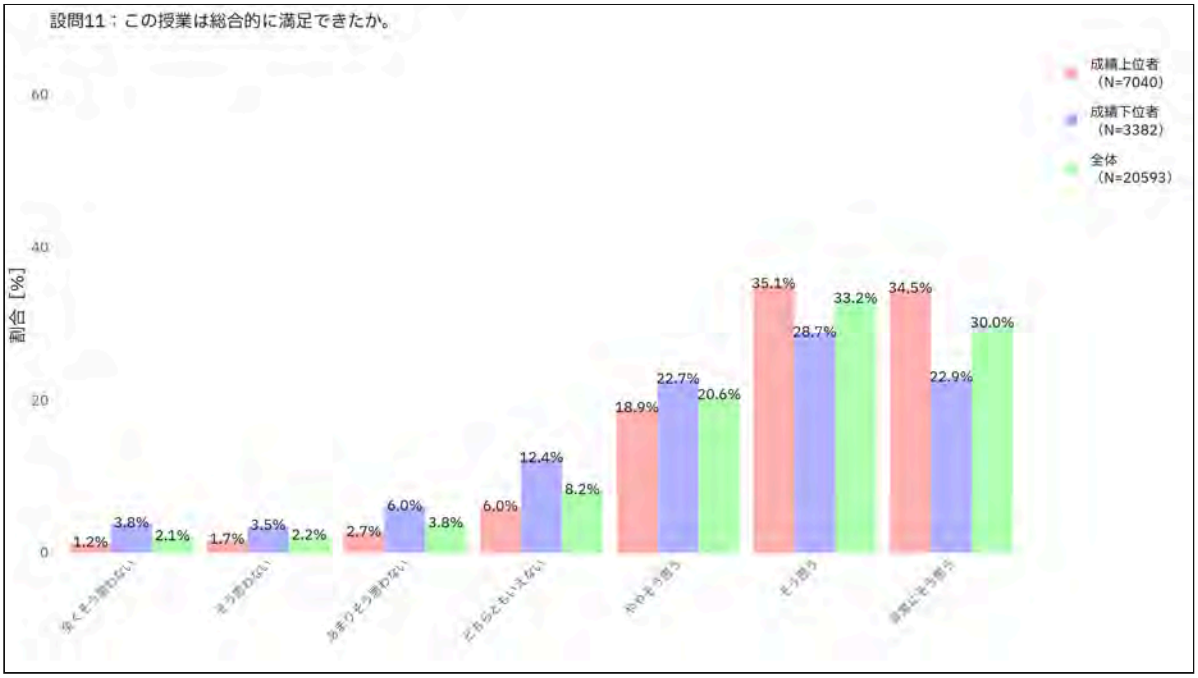
授業の履修者を、中央大学自己点検・評価報告書2023年度版の第8章「教育研究等環境」を参考に以下のように区分し、成績上位者と下位者の回答傾向を比較しました。

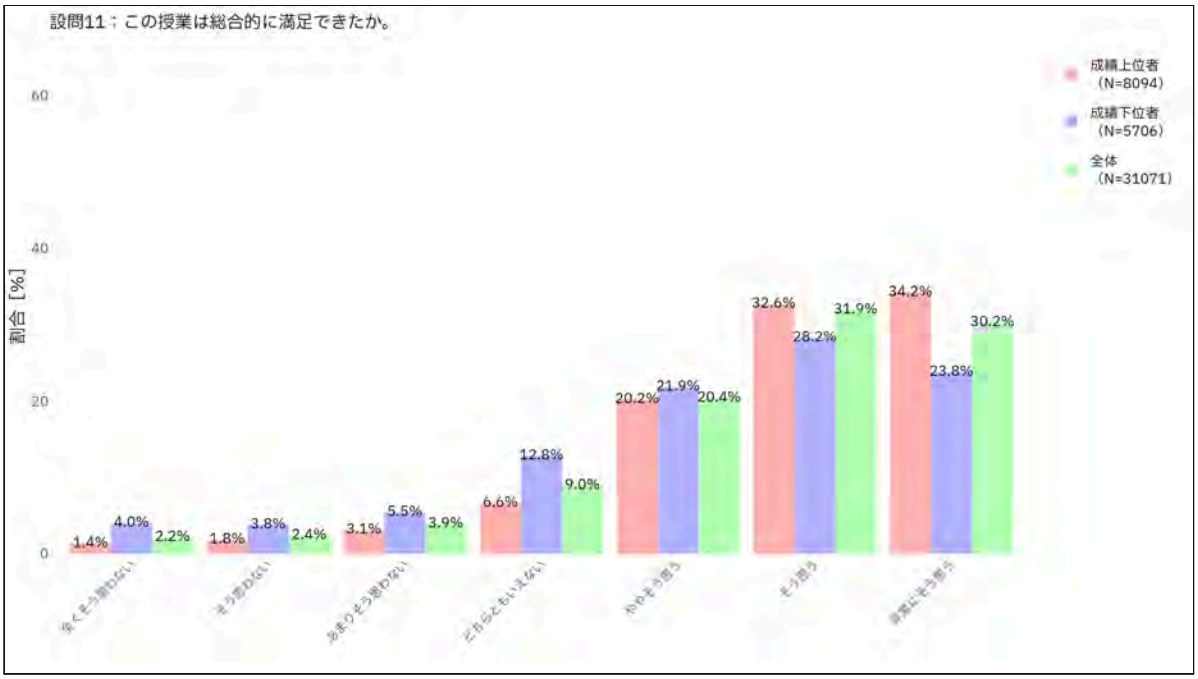
- 1〜20人
- 21〜50人
- 51〜150人
- 151人以上

設問11（この授業は総合的に満足できたか）に注目してみると、履修者数が増えるにつれて「非常にそう思う」の回答割合が減少する傾向が見られました（下図4つのグラフを参照）。少人数授業の方が、授業に非常に満足している学生の割合が高い傾向にあるようです。




設問11：この授業は総合的に満足できたか。
成績上位者 (N=11164)
成績下位者 (N=4717)
全体 (N=35680)
割合 [%]
0
20
40
60
0.8%
3.4%
1.5%
1.2%
2.9%
1.8%
2.3%
5.1%
3.2%
4.2%
9.9%
6.6%
14.9%
19.7%
17.2%
33.5%
28.9%
33.3%
43.1%
30.1%
36.3%


設問11：この授業は総合的に満足できたか。
成績上位者 (N=7040)
成績下位者 (N=3382)
全体 (N=20593)
割合 [%]
0
20
40
60
1.2%
3.8%
2.1%
1.7%
3.5%
2.2%
2.7%
6.0%
3.8%
6.0%
12.4%
8.2%
18.9%
22.7%
20.6%
35.1%
28.7%
33.2%
34.5%
22.9%
30.0%



*図：上から順に、履修者数**1〜20人**／履修者数**21〜50人**／履修者数**51〜150人**／履修者数**151人以上**の授業に関する設問11の回答分布*

2.2.1 履修者数と自由記述

履修人数が多い（151人以上）授業で、学生がどのような声を上げているか自由記述から見ていきます。設問15（良かったと思う点）ではLLMによるトピック抽出の結果から、次のような記述が見受けられました。

表：履修者数151人以上の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=8,232）

トピック	自由記述例
分かりやすさ／興味深さ	●資料や先生の説明が丁寧でとても分かりやすかったです。 ●専門的な知識を学べる一方で、私生活でも使えそうな情報を盛り込んだ授業となっていて非常にためになりました。 ●実際の事例を多く紹介していて、面白かった。
授業資料の重要性	●事前に講義資料に基づいた小テストで予習できたので、講義が理解しやすかった。 ●レジュメが分かりやすく、その通りに授業が進められた ●資料の画像や映像が豊富で理解が深まりました。
教員陣のサポート	●質問に対してとても丁寧に教えてくださりました。 ●実験のレポートなどに関する質問に対して、TAの方や先生方が細かく教えて下さったのがありがたかったです。
授業形式	●小テストで復習できる ●課題が多くて復習しやすい ●一方的な講義ではなく、双方でコミュニケーションを取りながらの講義だった

トピック	自由記述例
	ので集中して受けることが出来た。 ●小レポートのおかげで自分のレポート力が上がったような気がします。 ●オンライン授業の内容がとても分かりやすく、オンデマンドであることによってフレキシブルな時間で受講できた。
ゲストスピーカー	●実務経験を踏まえた講義やゲストスピーカーの方の講義が非常に面白かったです。 ●実務家の話を聞く機会が多い点。
フィードバック	●レスポンへのフィードバックが多かった点。 ●フィードバックが丁寧で、他の人の意見を知ることができたのが良かった。 ●リアクションペーパーに対するフィードバックを丁寧に行なっていた

上記の内容はいずれも、履修者数が多いからこそという記述ではないため、履修者数の多少によらず様々な授業において有効そうです。

一方で、同じく履修者数151人以上の授業受講者からは、設問16（工夫・改善してほしいと思う点）において次のような記述が見受けられました。

表：履修者数151人以上の設問16（工夫・改善してほしいと思う点）における自由記述の例（N=7,242）

トピック	自由記述例
課題の締め切り	●最後のresponの締め切りが早いうえ,口頭でも非常に急かされるところ。 ●その日の課題の締め切りが、当日中なのが少ししんどかった。
授業の進行	●学生に向けてもっと聞きやすい声の大きさと速さにしてほしい。 ●授業のスピードが少し速いと感じるので、もう少し考える時間などを設けてほしいです ●先生が黒板に書くスピードが速く、同時に説明しているため、写す作業が追い付かない。 ●先生の話すスピードが速く聞き取るのが難しかったです。
授業の立ち上がり	●開始時間にルーズすぎる。 ●遅刻者に注意をすることは大切だと思うが、真面目に受けている人の集中力が削がれてしまっているのではないかと感じている。 ●パソコンの準備をしてからプリントを配り、渡り切るまで待つから授業始まりが遅いところ。
授業環境	●先生の声が小さいです。もっと大教室にふさわしい音量でお願いしたいです。 ●大教室とは思えないほど字が小さいので大きく書いていただくか、あらかじめレジュメを配布していただきたい。 ●教室が暑いのでエアコンを入れて欲しい。 ●教室がうるさい時に注意をしてほしい点 ●回線が混雑しすぎててレスポンやマナバにアクセスできない ●教室の後ろ三列に座っている学生の話し声が気になったことも多々あるが、先生は自身の話に夢中なって話し続けているので、集中できる環境だったとは言い

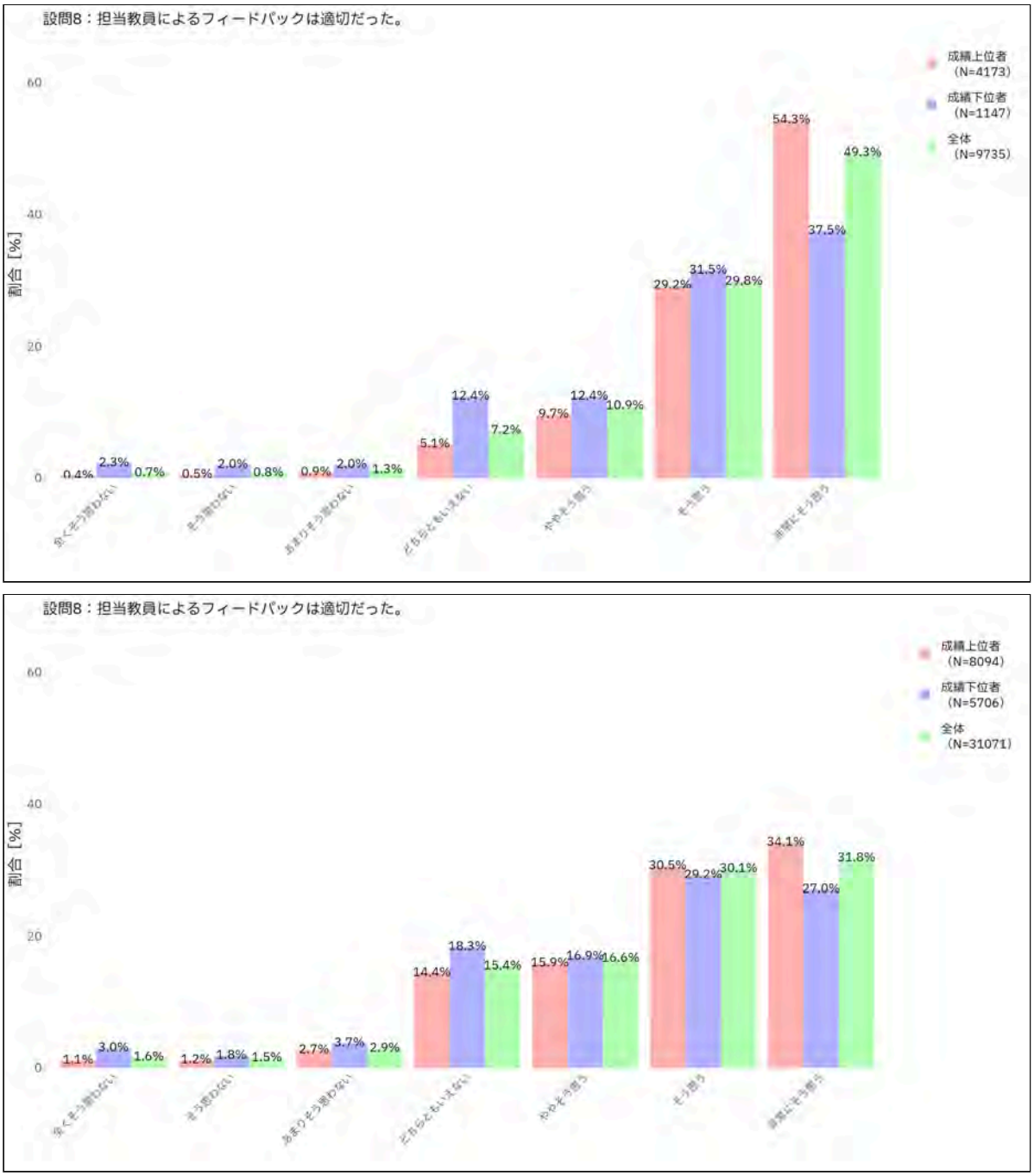
トピック	自由記述例
	難いと思った。 ●大教室でのグループワークは結構しんどいと思った。 ●もう少し教室が小さくてもいいかなと思った。
フィードバック	●クラスのサイズをもう少し小さくすることで、より個別の指導やフィードバックを受けられるようになると感じました。 ●グループセッションへのフィードバックがあまりなかった ●講師の先生が忙しく、フィードバックをもらえないことはわかっていたが、何のために質問や感想を書いたのかわからなかった。

課題の締め切りや授業の進行については履修者が少ない（20人以下）授業でも同様の意見が見受けられましたが、授業開始に係る記述や環境に関する要望は大規模授業ならではの意見のように思えます。実際、履修者数が多い授業ほど、設問5（担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった）や設問6（担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた）の回答番号は小さくなる傾向が見られ（履修者数と設問5、履修者数と設問6のスピアマンの順位相関係数はそれぞれ$r = -0.12$、$r = -0.12$）、受講者数が多いほどこれらの設問に対して不満を覚えている学生が多い様子がうかがえます。

特に、**レジュメの配布に時間がかかる**こと、**板書の文字が小さい**こと、**発声音量が小さい**こと、**教室がうるさい**ときに何らかの対応をとることに関しては、履修者数が多い授業において教員がすぐに実行可能な改善点でしょう。また「もう少し教室が小さい方が良い」という意見も見受けられました。すぐに教員がどうにかできるものではありませんが、例えばグループワーク等を行うときは、大教室において学生の活動スペースを物理的に細分化することで改善できるかもしれません。

2.2.2 履修者数とフィードバック

フィードバックが学習で重要なことは周知の通りですが、大規模な授業になるほどフィードバックは難しくなっていくものかと思われます。実際、授業アンケートでは履修者数が多い授業の方が設問8（担当教員によるフィードバックは適切だった）に対する回答の「非常にそう思う」の割合が低くなっており、特に成績上位者ではこの傾向が顕著です（下図参照）。**成績上位者はよりフィードバックを重要視**する傾向があるように見えます。



*図：（上）履修者数**1〜20人**の授業での設問8の回答分布／（下）履修者数**151人以上**の授業での設問8の回答分布*

全体の傾向節でも述べたように、リッカート尺度で回答する設問は互いに正の相関関係があります。フィードバックを適切に与えることで、例えば成長実感に関わる設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）や設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）などの評価も高まる可能性があることは、フィードバックを受けることによる一般的な教育効果を考えても異論はないかと思われます。

なお、履修者数151人以上の授業741科目のうち、設問8（担当教員によるフィードバックは適切だった）回答の平均値が6（そう思う）以上だった授業数は133件（全体の17.9%）ありました。これらの授業において、設問15（良かったと思う点）に寄せられた自由記述のうち、フィードバックに関する以下の記述が見受けられました。

- フィードバックの時間を設けてくれておりわからないところも気軽に聞きやすかった。
- 授業中に課題のフィードバックをしてくれるところが良かった。
- 毎回フィードバックと質問に答えてくれる点が良かった。
- 丁寧な説明で進行されていたし、わかりづらいというフィードバックがあった点は、復習回としてあらためて説明する回があったので、理解がしやすかった。
- レスポンによってフィードバックを貰えたのがありがたかったです。
- 授業を早めに切り上げ、フィードバックの記入時間を確保してくれたのが良かった。
- 学生コメントがたくさんあると思われる中、しっかり読んでフィードバックして下さる点、丁寧で嬉しかったです。
- レスポンへのフィードバックが多かった点。
- レポートに対してのフィードバックが丁寧でとてもありがたかった。

レポートへのフィードバックはもちろんのこと、**授業時間内にフィードバックを返している**点、また**学生からのコメント等を提出する時間を授業時間内に設ける**点を評価しているコメントが見られました。履修者数が多い授業においては、授業時間内でrespon等を利用してコメントを収集し、また授業時間内でフィードバックを返すことが学生には好まれているかもしれません。responでは今年度より、**AIを利用したフィードバックを与えられる**ようになったので、履修者数が多い授業でもフィードバックにかかる負担軽減が見込めたり、大規模授業では難しかった即時フィードバックが可能になったりするかもしれません。

2.2.3 履修者数とアクティブラーニング

授業アンケートに回答した授業の、アクティブラーニングの実施状況と設問11（この授業は総合的に満足できたか）との回答分布を下図に示します。全体的には、アクティブラーニングが未実施の場合よりも何らかのアクティブラーニングを実施していた方が、「非常にそう思う」の回答割合が高い傾向が見られました。

図：アクティブラーニングの実施状況と設問11の回答分布

履修者に依らない全体と比較して、受講者数が151人以上の授業においては、この傾向に若干の違いが見受けられます。PBLやディスカッション・ディベート、もしくは実習・フィールドワークを行う授業の満足度について、未実施よりも「非常にそう思う」の回答割合が高い傾向が見られました。また他のアクティブラーニングを行う授業においても、履修者に依らない全体と比較しても、未実施よりも「非常にそう思う」の回答割合はあまり高くありません。

図：履修者数151人以上の授業におけるアクティブラーニングの実施状況と設問11の回答分布

特に「非常にそう思う」の回答割合が比較的低い、151人以上が履修しPBL活動を含む授業について、自由記述設問16（工夫・改善してほしいと思う点）の回答を見てみると、特に以下のようなTA（Teaching Assistant）に関する意見が寄せられました。

- 実験の説明が不十分なTAの方がいて、どの手順で実験を行えばいいのか分からないことがあった。
- TAが少なく質問するまでに時間がかかったので時間をもうけるか、人数を増やして欲しい
- TAによって採点の仕方にばらつきがあると感じた。

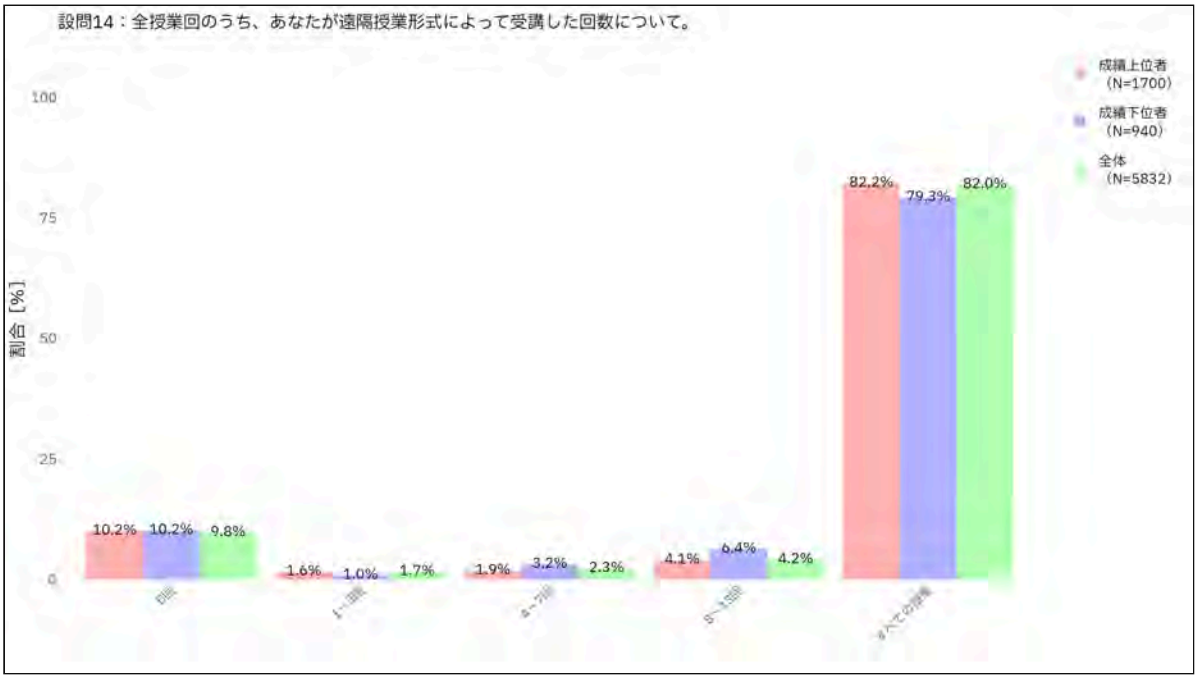
履修人数が多い授業ではTAのサポートがしばしば利用されますが、**TAに与える教員からの指示が授業の満足度に影響を与える可能性**があることは留意すべき点と考えられます。

2.3 遠隔授業科目に注目した分析

当該科目が遠隔授業科目（全授業回数のうち半数を超える回が遠隔で行われる授業科目）かどうかで、授業アンケートの回答傾向にどのような違いがあるか調査しました。

前提として、各教授会で選定された遠隔授業科目について、下記に示す設問14（全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について）の結果から、遠隔授業科目を受講した学生の80%程度は全ての授業を遠隔環境で受講していたことが分かります。そのため本節で述べる分析対象となる回答情報は、全ての授業を遠隔で受講した学生が中心となって回答したものであることにご留意ください。

また本資料中では、「遠隔授業科目」を「遠隔授業」、「遠隔授業科目ではない授業科目」を「対面授業」とそれぞれ表記します。

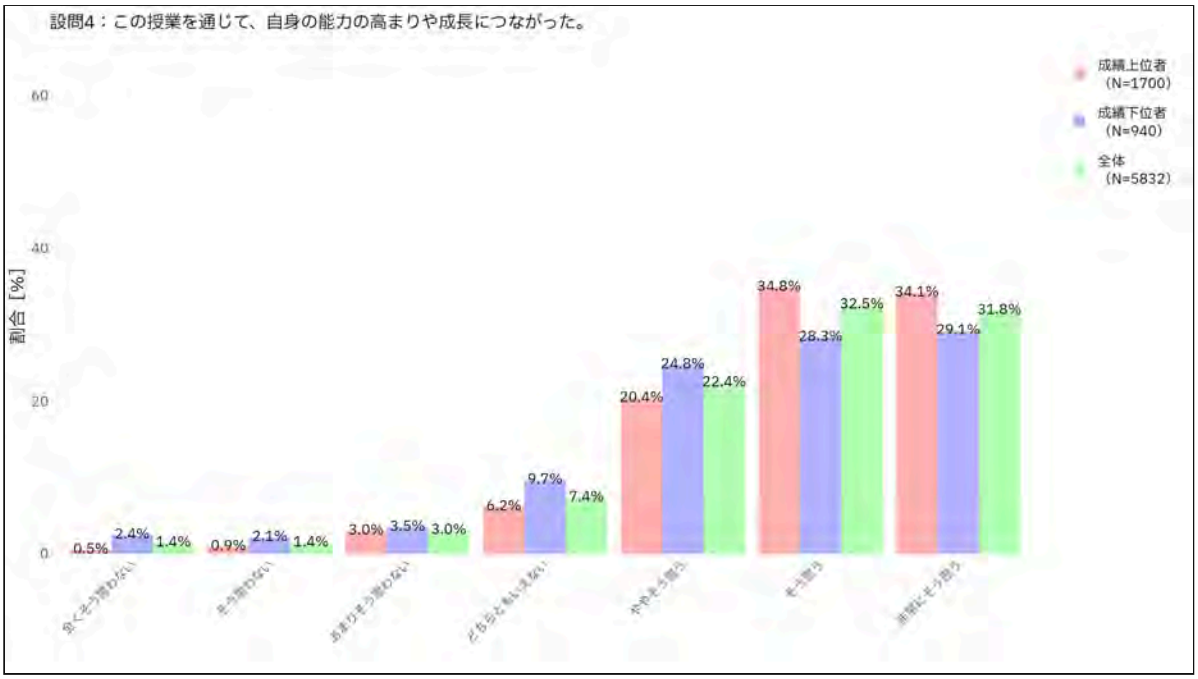


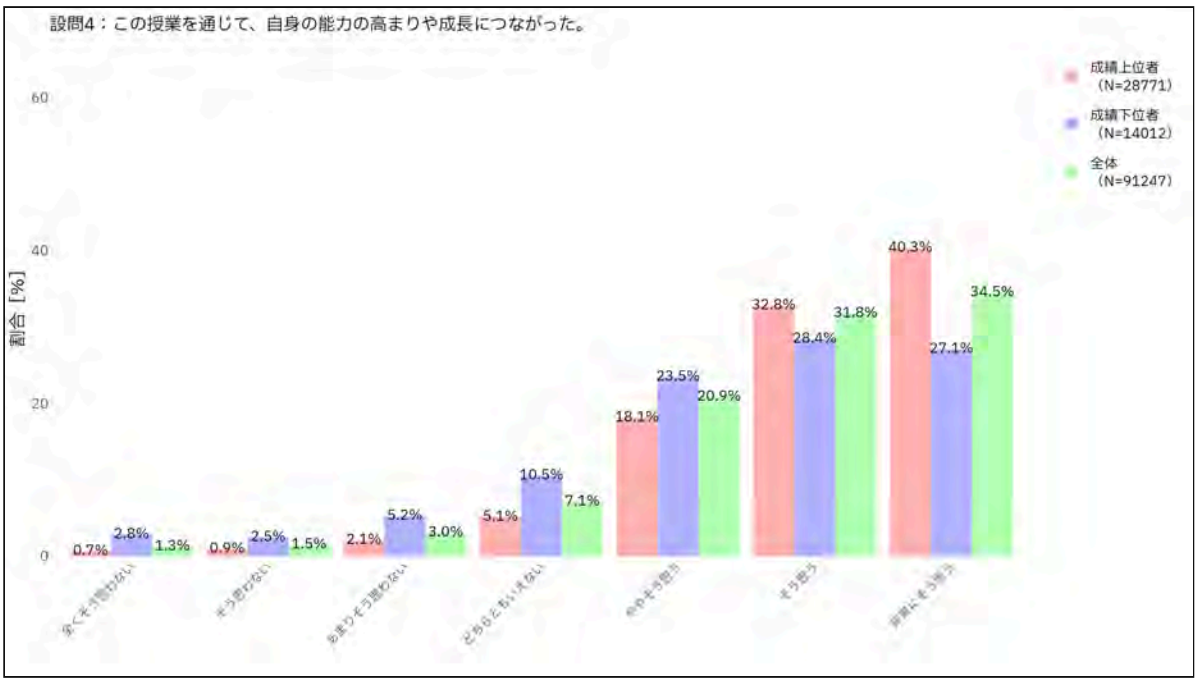
図：遠隔授業科目を受講した学生における設問14の回答分布

2.3.1 リッカート尺度で回答する設問の全体傾向

遠隔授業を受講した学生と対面授業を受講した学生でリッカート尺度で回答する設問の回答傾向を見ると、**成績上位者ならびに全体において**、**設問7（教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った）を除く全ての設問で、遠隔授業を受講した学生の方が「非常にそう思う」の回答割合が低い傾向**が見られました。以下に例として、成長実感に関する設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）と設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）の回答分布を示します。

*図：（上）**遠隔**授業を受講した学生における設問3の回答分布／（下）**対面**授業を受講した学生における設問3の回答分布*





*図：（上）**遠隔**授業を受講した学生における設問4の回答分布／（下）**対面**授業を受講した学生における設問4の回答分布*

ただし上図に示されているように、**成績下位者は、対面授業より遠隔授業を受講した方が成長実感が高い**様子がうかがえます。しかし成績が低いことから、遠隔環境で自分の、授業の理解度を正確に把握しきれていない可能性があります。つまり、**成績下位者の方が遠隔授業で「できたつもり」になっている可能性**がありま

す。遠隔授業を受ける潜在的な成績下位者のために、自身の理解度を測るための小テストなどの機会は、遠隔授業においてより重要になるかもしれません。

他方成績上位者に注目すると、遠隔授業では成長実感が比較的高まらず、対面授業の方が自身の成長を感じている傾向にあります。ここで成績上位者が遠隔授業において抱いている感想を、自由記述の設問16（工夫・改善してほしいと思う点）と設問18（オンラインコンテンツについて、工夫・改善してほしいと思う点）から見ていきます。

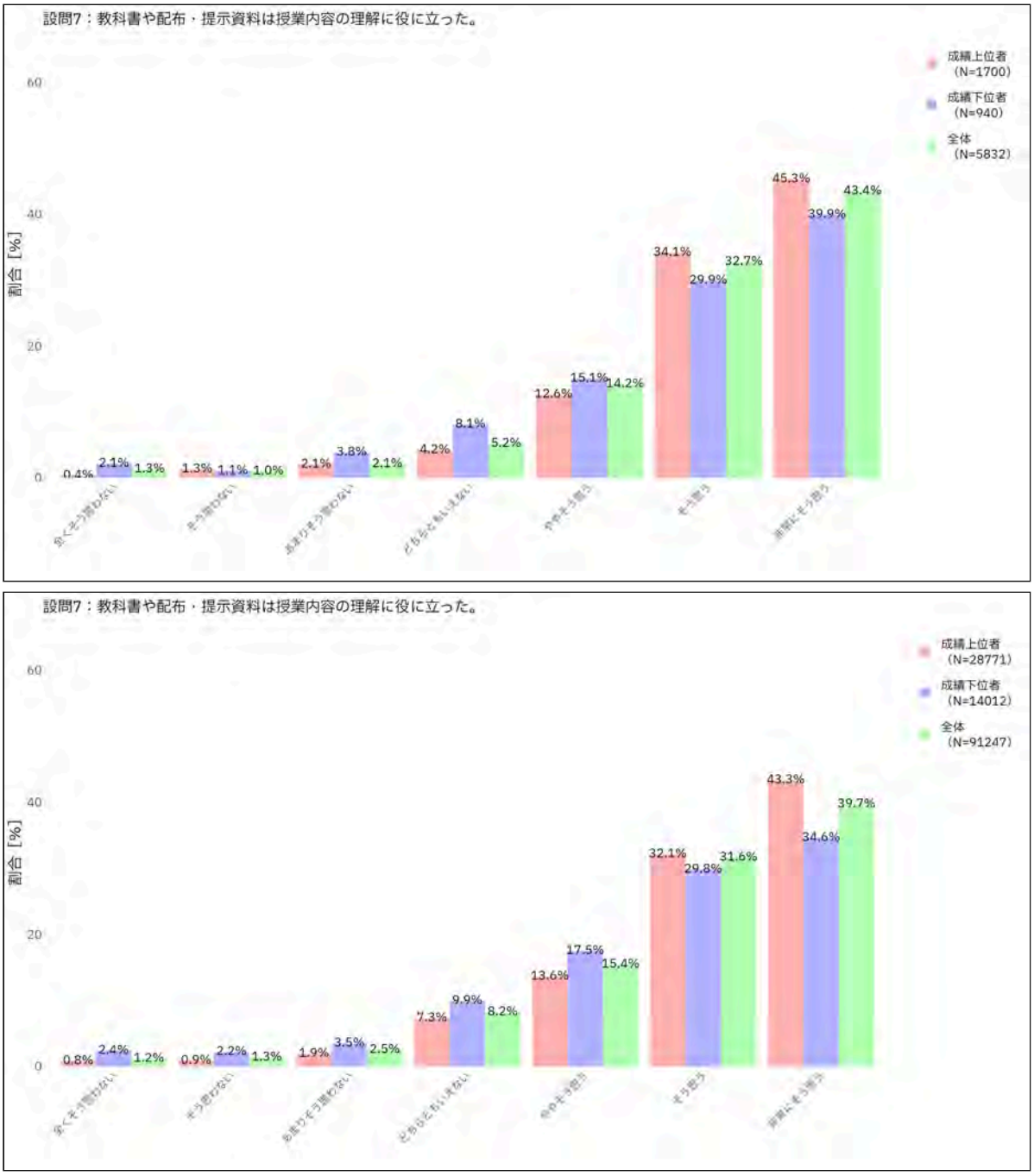
表：遠隔授業を受講している成績上位者による設問16（工夫・改善してほしいと思う点）と設問18（オンラインコンテンツについて、工夫・改善してほしいと思う点）における自由記述の例（それぞれN=473、258）

トピック	自由記述例
動画／オンライン環境の問題	●動画が少し重かった ●音声が聞こえづらいときがあった ●動画公開期間または小テスト期間をもう少し延ばすもしくは月曜から木曜にも勉強できた方が個人的には嬉しかった。 ●たまにミュートが外れて騒音を出している生徒がいたので矯正*ミュートなどの機能があれば使用してもらえれば良かったかなと感じました。（*注：「強制」の誤字） ●たまに電波が悪くて映像がなにを言っているのか聴き取れない時があった。 ●画質が悪く、何を書いてるのかわからない時があります。
レポートに関して	●レポートの課題の内容が似ている回が多いなと感じた ●各回のレポートの成績をすぐに確認できないため、1年生の私からしたらレポートはこれで合っているのかを(書き方、内容など)確認できないこと。 ●毎回のレポート課題に関する自分の点数を知りたかったです。 ●他の受講者の優秀レポートやそれに対する教師の感想は見ることができるものの、自分のレポートに対する具体的な振り返りが点数でしか受け取れない点。 ●期末レポートの書き方について指導があると良い。 ●オンデマンド形式を活かしてもう少し期間に猶予があると嬉しかった。
資料の提示	●スライドのmanaba上での提示がない講義があり、復習、レポートを書く際に不便なところがあった ●前回までの授業を参考する問題をレスポンで出すくせに、レスポンであるため何を習ったかの確認ができず、同時に動画も1週間経つと見れなくなってしまうため、理解の定着が出来ない。 ●動画内で引用された参考文献(報道機関、ファクトチェックサイト、各種団体など)のURLをmanabaにも貼って、アクセスしやすいようにしてほしい点 ●資料が多くどれがどれだか分かりづらい

成績上位者が遠隔授業に対して抱いている不満は、**音声や画質の問題**、**動画と配付資料に関する連携（動画と同時に資料も公開する、動画中の資料を参照しやすくする）**など、一般的に遠隔授業で起こりうる問題に関係するように見えます。対面環境で起こらない／起こりにくいこのような問題が、成績上位者に対して満足度や成長実感などを低下させる要因になりうる可能性があります。

2.3.2 授業資料に関する傾向

一方で、設問7（教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った）に対する回答は、成績によらず遠隔授業を受講した学生の方が「非常にそう思う」の回答割合が高くなっています。



*図：（上）**遠隔**授業を受講した学生における設問7の回答分布／（下）**対面**授業を受講した学生における設問7の回答分布*

この理由を、設問15（良かったと思う点）と設問17（オンラインコンテンツについて、良かったと思う点）の自由記述から見ていきます。

表：遠隔授業を受講している成績上位者による設問15（良かったと思う点）と設問17（オンラインコンテンツについて、良かったと思う点）における自由記述の例（それぞれN=1,791、898）

トピック	自由記述例
オンデマンドの便利さ	●いつどこでも勉強ができて全く同じ内容をいつでも復讐*できる（*注：「復習」の誤字） ●オンデマンドなので、都合の良い時間に授業を受けることができる ●動画がmanaba上でいつでも閲覧できるので、好きな時に復習でき便利だった。 ●The use of interactive tools like Webex facilitated effective communication and engagement during live sessions.（Webexのようなインタラクティブツールによって、効果的なコミュニケーションと授業への参加が促された） ●動画コンテンツは繰り返し視聴可能で、特に難しい部分を復習する際に大変役立ちました。
課題について	●小テストを成績評価に利用されているが、講義をきちんと聴かなければ解けない物であるため、オンデマンドながら出席のシステムがきちんと守られていると感じる。 ●授業で学んだことを小テストですぐにアウトプットできたので、授業内容が定着しやすかった点が良かった。
動画の質	●動画が見やすく、話し声も聞き取りやすかった。 ●動画の進みがゆっくりで、ナレーションの速度もちょうどよいので見ていて苦にならない。 ●映像も音声もクリアで、対面授業と同じような感覚で授業を受けられる点。
授業の環境	●goolgeのメモみたいなもので生徒が全員で使えて、反応しあえたこと。manabaの個別指導の返信がすぐ返ってきてよかった。あと、ペアデック*は匿名なのに授業参加がしっかりできていい。（*注：ペアデック（Pear Deck）はGoogleスライド用アドオンのこと） ●Webexを利用したリアルタイムのディスカッションや質疑応答の時間が設けられており、学生が積極的に参加しやすい雰囲気がありました。

こちらも、遠隔授業ならではの特徴が見受けられます。特に、オンデマンド授業の利点として「いつでも復習できる」「都合の良い時間に授業を受けることができる」などの意見が多く見られました。動画のような遠隔授業ならではの授業資料だけではなく、授業を受ける環境なども授業内容の理解に役立った可能性があります。

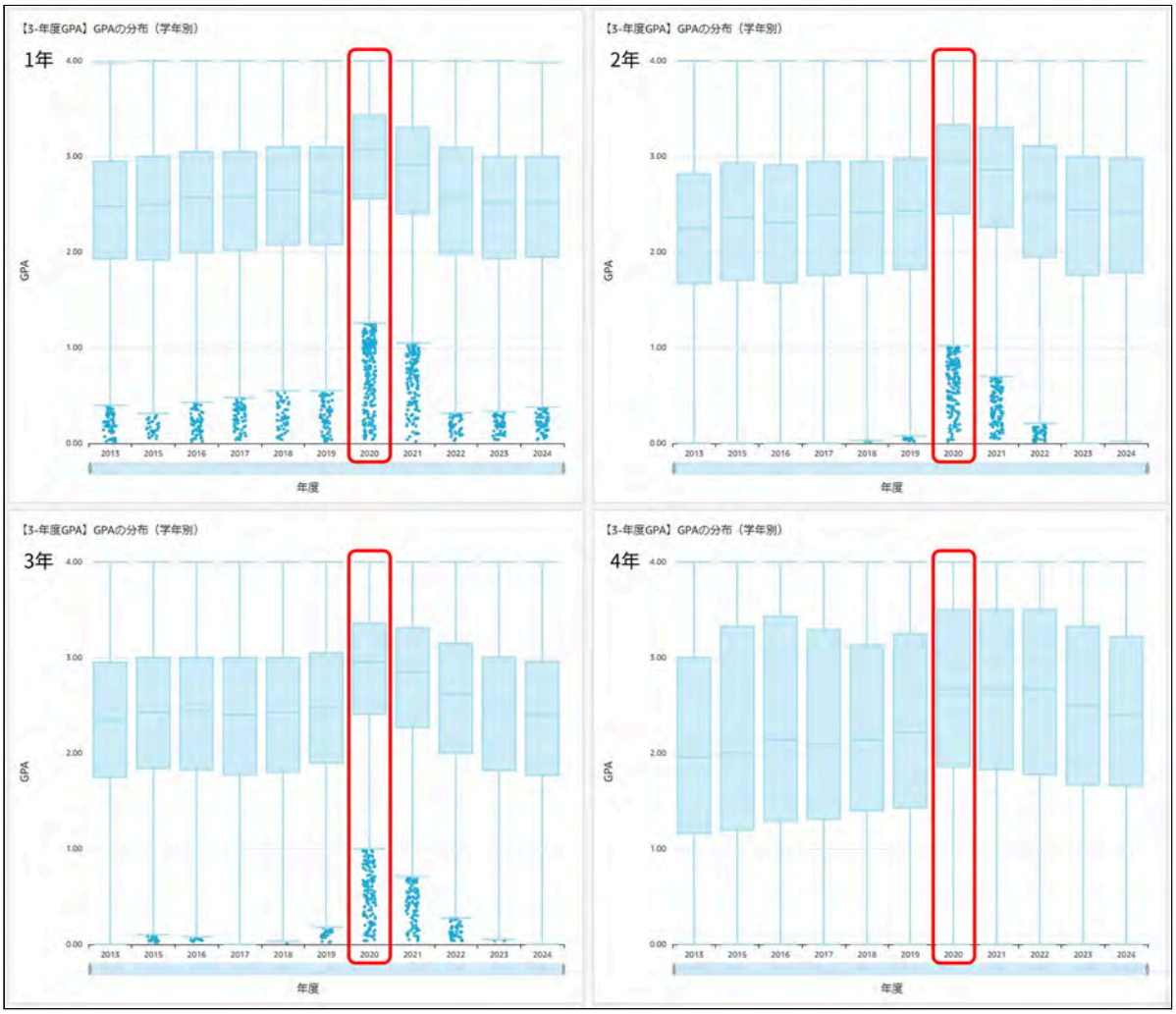
特に動画の質に関する肯定的意見は、先ほど述べた成績上位者の遠隔授業に対する不満と相反するように見えますが、言い換えると、**動画の音声や画質、配付資料は遠隔授業においては特に重要であり、これらの質一つで授業の評価が良くも悪くもなる**と考えることもできるでしょう。現状は設問7（教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った）の評価が対面授業よりやや高い傾向にありますが、**授業資料については引き続き、対面授業以上に気をつける**必要がありそうです。

2.4 GPAに注目した分析

本報告書では、2024年度の単年度のGPAに基づき、授業アンケートの回答傾向等を分析しました。以下、GPAとは学生ごとの2024年度の単年度のGPAを指します。

2.4.1 コロナ禍前後のGPA推移

まず、過去10年のGPAの推移を下図に示します。2020年（下図の赤枠）では新型コロナウイルスの影響で遠隔授業が多くなった年ですが、4年生を除くとこのタイミングでGPAが急上昇し、2024年度ではおよそコロナ禍以前の水準に戻っている様子がうかがえます。

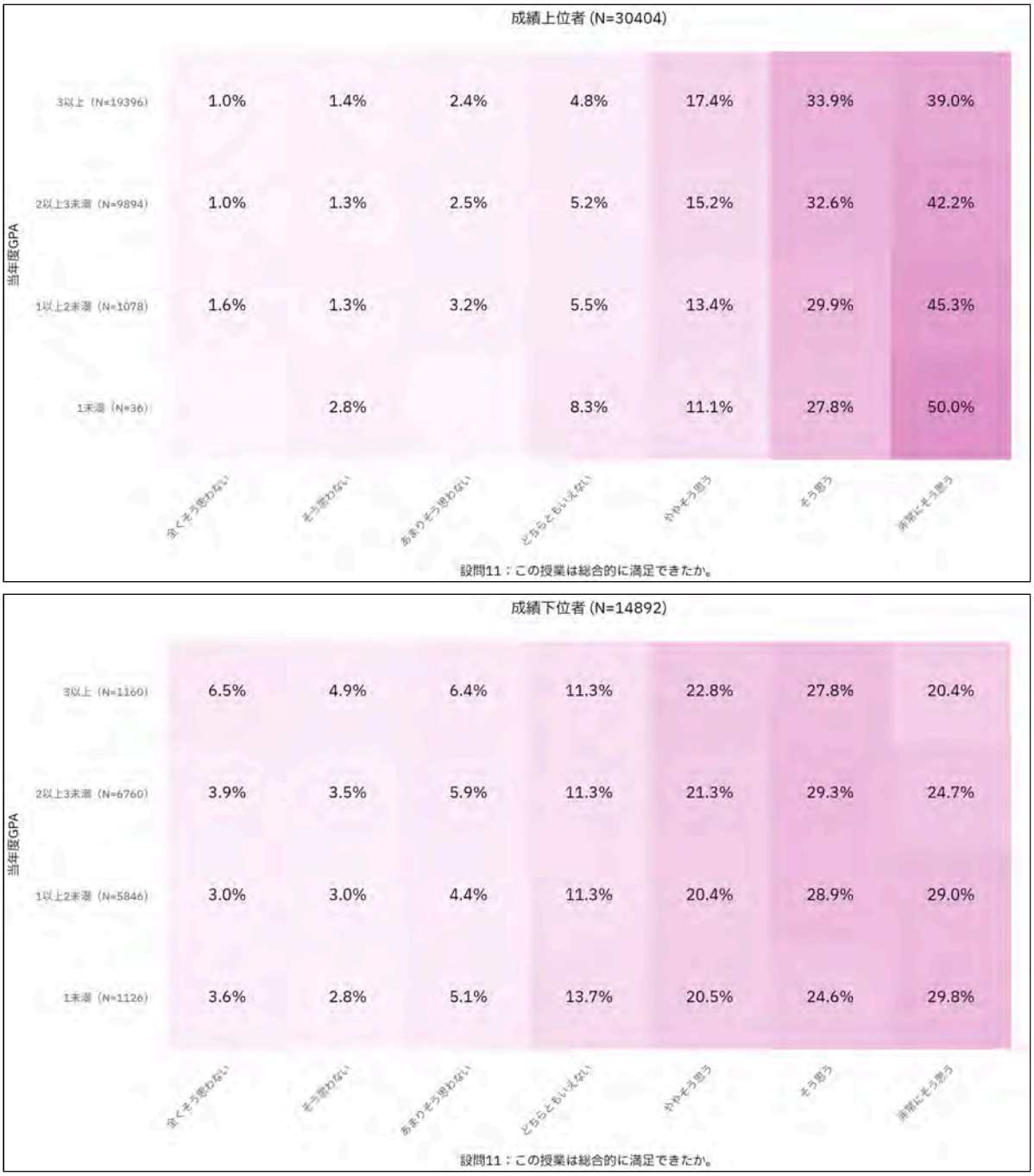


図：過去10年の学年ごとのGPAの推移（IRQuAより）。図中赤枠は2020年度を示す。

2.4.2 成績上位者と下位者のGPA別授業満足度

過去の授業アンケート分析では、成績上位者が下位者より授業満足度が高い傾向が見られることと同様に、GPAが高い学生は低い学生より授業満足度が高い傾向が見られることを確認しました。ここで、GPAは低いが

当該科目の成績が上位だった学生と、GPAは高いが当該科目の成績が下位だった学生の授業満足度を比較してみます。



図：（上）当該科目の成績が上位（S評定）の、GPA別設問11の回答分布／（下）当該科目の成績が下位（C評定以下）の、GPA別設問11の回答分布

サンプルサイズが多くないことに留意は必要ですが、上図を見ると、GPAが低くても成績が上位であれば「非常にそう思う」の回答割合が高く、GPAが高くても成績が下位であれば「非常にそう思う」の回答割合が低い傾向が見られます。このことは、授業の満足度などの評価はあくまで当該科目の成績と関係するものであり、GPAが高い、例えば真面目な学生が受講（アンケートに回答）したから授業の評価が高くなる、というわ

けではないことを示唆します。これは例えば、FLPのような学生の主体性が一番に求められるような授業で授業アンケートをとったとき、そのアンケートの結果には学生の真面目さより、学修の質が直接的に影響を与えやすい（かもしれない）ということを示唆しています。

2.4.3 GPAと授業への出席

ただしGPAは、授業アンケートの設問の中で唯一、設問9（この授業に対する出席率について）に対して正の相関を持ちます（スピアマンの順位相関係数 $r = 0.37$）。これはすなわち、GPAが高い学生ほど授業に出席している傾向があることを示唆します。そして全体の傾向節の図にあるように、設問9と設問11（この授業は総合的に満足できたか）には相関がほぼありません（スピアマンの順位相関係数 $r = 0.09$）。つまり、授業によく出席する学生はGPAは高い傾向にあるものの、すなわち授業に満足しているとは言い切れない点に注意が必要です。授業によく出席している学生にこそ、耳を傾けるべき意見があるかもしれません。GPAが高い学生がアンケートに回答してくれる真面目な学生だと仮定すると、**授業途中に中間アンケートなどを取ってみると、学修の質を向上させるためのヒントが得られるかも**しれません。

2.5 授業タイプ別授業満足度が高い学生の声

受講した授業の授業タイプ別に、設問11（この授業は総合的に満足できたか）に対する回答が「そう思う」もしくは「非常にそう思う」と回答した学生の、設問15（良かったと思う点）における自由記述のトピックを集計し、授業改善のためのヒントを探りました。

2.5.1 講義科目

一般に「大学の授業はこうあったら嬉しい」と考えられる意見が多く出ていることがうかがえます。特に「安心」というワードに関連して、**教員自身の雰囲気を良く**したり、**質問に対して真摯な回答**を心がけたり、**授業中に発言することに対する心理的安全性を確保**することは、どのようなタイプの授業においても比較的容易に実行可能な改善点と考えられます。

*表：授業満足度が高かった、**講義**科目を受講している学生の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=12,293）*

トピック	自由記述例
教員の雰囲気	●先生の話し方がとても聞き取りやすく、わかりやすかった。 ●先生のユーモアがあって授業を受けていて面白いです。 ●先生が優しかった ●こちらからの個人的な質問に対しても真摯に対応して頂いた。 ●生徒が飽きないように授業のテーマに関連した話もたくさんしてくださり飽きることがありませんでした。 ●先生がにこにこしていて安心できた ●授業中に息抜きとして面白い話もしていただけるので、それを授業の楽しみとして出席してたと言っても過言ではない。

トピック	自由記述例
授業の内容	●直近のニュースや出来事も含めて話をしてくれて立体的に産業構造を掴めたと思う。 ●普段は考えない視点から人間の行動を考察できて面白かった。 ●The material and knowledge are up to date.（教材と知識は最新のものだった） ●授業中に出てきた内容について、教授が自身の実体験をもとにした話を交えてくれたおかげで、興味を持ちながら学ぶ事ができた。 ●初めは経営に対してあまり興味がなかったけれど先生の教え方がとてもわかりやすく興味深く感じたため経営への関心が湧きました
授業／学習の環境	●他学部の人と交流というものがなかったので、この授業でグループワークなど交流する機会があり楽しかった。 ●質問に丁寧に回答していただけたこと。 ●レジュメが分かりやすく、また参考資料なども充実していて理解が深めやすかったです。 ●小テストがあったので定期的に復習することができた点。 ●受講者のリアクションペーパーから教授が面白いと思ったものを冒頭で取り上げてくれるのがよかった。 ●私語の注意をしてくれるので、講義に集中しやすい環境だった。 ●途中、休憩時間を挟んでいて集中力を保つことが出来た。
サポート体制	●なかなか答えるのに時間がかかってしまう人にも、その人その人に合わせてヒントをだしながらペースを調整してくださるところ ●授業後などに個別の質問に丁寧に答えてくださった点。 ●複雑なトピックについてお話をされているときに、”ついてこれている?”と私達に細かに確認をしてくださったので、安心して講義を聴くことができました。 ●毎時間出されるアンケート課題で授業内容の復習ができてとてもよかった。また授業の始めに解説をしてくださるので疑問点を解決することができた。

2.5.2 実験・製図科目

実験・製図科目の科目数に起因して回答数も少なかったですが、全体的に**フィードバックを含めたコミュニケーションの重要性**、そして**実験を行うことそのものによる満足度の高まり**をうかがい知ることができる結果ではないかと考えます。

*表：授業満足度が高かった、**実験・製図**科目を受講している学生の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=146）*

トピック	自由記述例
フィードバック	●レポートへのフィードバックが丁寧で分かりやすいので、改善につながりやすい。 ●TAさんが優しく、丁寧にレポート指導して下さったおかげで、レポートのやる

トピック	自由記述例
	気が出ました。 ●TAに質問するとわかりやすく丁寧に対応してくれてよかったです
授業／学習の環境	●実際に実験をして学ぶことでただ聞いているだけの授業よりも知識が身についた。 ●他の学年の学生と交流することができた。教授と話しやすい環境だった。 ●授業で学んだ事を実験を通して再考察でき、かなり理解が進んだ。 ●採点基準が細かく設定されていたのでそれに沿って考察していくと理解が深まっていくという形が良かった。 ●専門でない科目の実験を通じていろんな物理現象について関心をもつことができた点。

2.5.3 実習科目

実習科目は回答数が極端に少なかった（N=24）ため、トピックごとに分類することはできませんでしたが、以下に自由記述の例を示します。特に、**学生個人では経験できないような特別な経験ができた**ことによる満足度の高さがうかがえます。

- 生徒同士で相談しながら、ひとつの物を作り上げる難しさ、制作過程で生じる問題など、多くのものを学ぶことができた。
- 様々な現場の見学に行くことができてとても新鮮で楽しかった。多くの企業を知ることができたという点もよかった。
- 実際に就職する可能性があるような現場に行くことが出来る貴重な授業だと思いました。
- 個人では入れない場所に行けたことが良かったと思う。

2.5.4 演習科目

講義科目と同様の傾向が見て取れます。相違点としては、演習科目は特にプレゼン、インタビュー、プログラミング、レポートなど**実際に自分で手を動かして行う作業に対する評価**が比較的多く見受けられました。

*表：授業満足度が高かった、**演習**科目を受講している学生の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=1,654）*

トピック	自由記述例
授業の内容	●理論と実践を結びつける内容であり、チームワークを通じて他の学生と議論する機会が多かったことです。 ●教員のスライドと解説が分かりやすく、配布資料がそのまま演習に使えるように工夫されていた点。 ●プレゼンやディスカッションが多く、生徒主体で能動的に学ぶことができるのがモチベーションに繋がった。 ●グループワークやゲストスピーカーなど意欲的に取り組めるようなものが用意されていた点。 ●レポートを添削して貰える機会は貴重で、ためになった。

トピック	自由記述例
	●グループワークや1対1のインタビュー練習など、人数が少ない授業ならではの活動ができた点。 ●プログラミングの経験はほぼ無かったが、楽しんで授業を受けられ、知識もしっかり身についていると感じられて良かった。
課題に対して	●それぞれの課題についてみんなで話し合うことができること。 ●感想文を英語で書くという課題も、自分のライティング能力を上げる一助となった。 ●レポート・論文の書き方が丁寧に指導されており、課題のフィードバックも丁寧だったので、他の授業にもそのスキルを応用できる点。 ●質問用のTAを配置していたこと.課題の量は多いと感じたが,その分実y六*がついた.（*注：「実力」の誤字）
授業内外のコミュニケーション	●先生が個別面談を開いてくれたり、いつも相談に乗ってくれたりと、研究を優しくサポートしてくれた点。 ●ゼミでもあり、ディスカションする時間が多く、教授と距離違く*話すことができ、話安い雰囲気が作れていることが良かった。（*注：「近く」の誤字か） ●質問対応を個別に行ってくれて解説も分かりやすい点。

2.5.5 実技科目

実技科目では、様々なスポーツの技術を磨くことはもちろんのこと、**運動不足の解消**や**健康意識の高まり**、また当該スポーツの**初心者や運動が苦手な学生に対する配慮**が満足度の高まりに繋がっている様子がうかがえます。

*表：授業満足度が高かった、**実技**科目を受講している学生の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=505）*

トピック	自由記述例
授業の雰囲気	●時折授業内で面白いことを仰るので雰囲気が良かったです。 ●体育に苦手意識があったが少人数のアットホームな雰囲気で、ゲームが多かったので多少楽しく参加できた ●授業の雰囲気も非常によく、学生と先生もなじみやすい環境だった。自分のように運動が得意でない人も参加しやすい、楽しい授業だった。 ●運動苦手だけど楽しかった。
能力の向上	●パスキャッチの練習やゲームを何度も重ねていくうちに、一度も触れたことがなかった競技にも関わらず、技術が向上している実感があったことで、さほど抵抗なく授業に参加することができた。 ●今まで経験したことないスポーツでしたが色んな練習を経て楽しく試合出来ました。 ●フリーの時間が設けられていた為個人で練習課題に取り組むことができ、苦手なことを集中して練習できたこと ●1つ1つの動作を手の動きや足の動きなどに分解して練習した後に1つの動きと

トピック	自由記述例
	してまとめて練習し、理解する方式で講義が行われており、十分にできていなければそのたびに手本を示していただけたのでとても理解しやすい講義でした。 ●ラリー練習やダブルスなど実践的な実習が多かったこと。
初心者への配慮	●初心者でも楽しく取り組むことができました。 ●初心者から経験者まで楽しめるような授業だった ●初心者でもわかりやすく説明してくれた点 ●体育を得意とする生徒もいれば不得意な生徒もいるとして、授業を工夫してくださったことが有難いと思いました。
健康／運動への意識	●どうしても大学生になると運動不足になりがちでしたが、この授業があることによって何とか最低限、体を動かすことができたため、自分自身の健康のためによかったです。 ●ストレッチや筋トレを行えるのが、健康にいいと実感できてよかった。 ●準備運動で他のスポーツをやることで、得意なもの、苦手なものが理解でき、コミュニケーションをとるのが苦手な僕でも楽しく受講できた。 ●姿勢を正す際の意識を学ぶことができ、実生活でも役に立つと感じた。

2.5.6 外国語科目

外国語科目では、**発声／発音を含む自身の語学力の向上**が満足度の向上に寄与している様子がうかがえます。そのほか、単に文法などを学習するだけではなく、**教員の経験談などから海外の文化を知る**ことができる点や、**発音のミスに寛容**な学習環境、**留学に関する情報提供**なども評価点になるようです。

*表：授業満足度が高かった、**外国語**科目を受講している学生の設問15（良かったと思う点）における自由記述の例（N=6,517）*

トピック	自由記述例
授業の内容	●生徒の訳の後にパワーポイントでも先生の訳を提示して貰えるので非常に分かりやすかった ●難しい構文を分かりやすく解説していただいたので理解がしやすかった点。 ●発音が聞きやすかった。 ●中国語の発音や文法の基礎を楽しみながら学べた点。 ●ネイティブの先生が、フランス市民の実際の生活を写真や動画、先生の実体験をもとに話してくれて、ただ会話の練習をするだけでなく、フランスを身近に感じながら言語を学ぶことができた。 ●先生が幼いころの話をしてくれて、中国の文化が知れる点。 ●英語の論文を大学1年で自発的に読もうとはあまり思わなかったため、学術的文章に英語で触れる良い機会だった。 ●ドイツへの留学経験がある教員による授業のため、ドイツ語をドイツの歴史や文化と関連づけて学ぶことができたのがとても良かった。
語学力の向上	●発音の練習を授業中にできたため、脳に入りやすかったことが良かったです。 ●練習問題を行いそれを発表するというのは発音の練習にもなるので良かった。

トピック	自由記述例
	●韓国語の細かい発音が練習出来て良かったです。 ●フランス語の文化や根本的な発音の仕方を学ぶことができた点。 ●留学の準備ができる英語を臆せず話せるようになるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を養える
フィードバック	●calabo*を使用して自分の音声を先生に送ることで発音の弱点などが知れてまた、矯正してもらうことで前期よりもより発音の強化がされた点が良かったと思う。（*注：CaLaboはシャドーイング練習などが可能な語学学習支援システムのこと） ●自分が書いたライティングに対して、先生からアドバイスやフィードバックがきちんとあってよかった。 ●ソロプレゼンの練習を事前にしていただいた点。グループプレゼンとソロプレゼンの適切なフィードバックを送っていただいた。
学習環境	●分からないところを質問しやすい雰囲気作りをされていた点。 ●先生が個別指導コレクションを開設してくれており、何でも質問することができた。 ●アクティブラーニング*形式を積極的に取り入れており、楽しく実践的に学習できた点（*注：この授業ではPBLを実施していた） ●発音に関して、とても丁寧に扱ってくれて、非常にわかりやすく、ミスしても特に強く責められることはなく、積極的に参加したいと思えたという点。
自身の留学に繋がること	●自分の留学したい気持ちととてもマッチしていて方向性を示してくれたので取って良かったなと心の底から思います。 ●この授業を受けて、留学について具体的に考えるようになりました。 ●留学計画書の作成や留学した先輩のプレゼンなど、実際に留学するときに役に立つであろうことをたくさん経験し、知ることができた。 ●留学に行くにあたって必要な情報や、その集め方を知ることができたのが良かった。

2.5.7 卒業論文科目

卒業論文科目も回答数が少なかった（N=79）ため、トピックごとに分類することはできませんでしたが、以下に自由記述の例を示します。特に、**意見交換のしやすさ**、**教員による丁寧なフィードバック**と**進捗のコントロール**、また**卒業論文のテーマに対する理解の深まり**などが、満足度の向上に寄与している様子がうかがえます。

- 卒論を書くにあたって、タイムスケジューリングから毎回の適切なフィードバックまでして頂き、論文執筆の大きな助けになりました。
- 卒論に関して丁寧で迅速なフィードバックを頂けて助かりました。
- 今年度のゼミは年間を通して卒業論文の執筆が主な内容でしたが、ほぼ毎月提出があり、その都度コメントやアドバイスを聞くことができたので、卒業論文をコンスタントに書き続けることができました。
- みんな自由に意見を共有し、間違っていてもリスペクあってでの訂正されるから*、いやな気持になれずに自ら取り組められる授業です。（*注：「リスペクトあっての訂正をされるから」の誤字か）

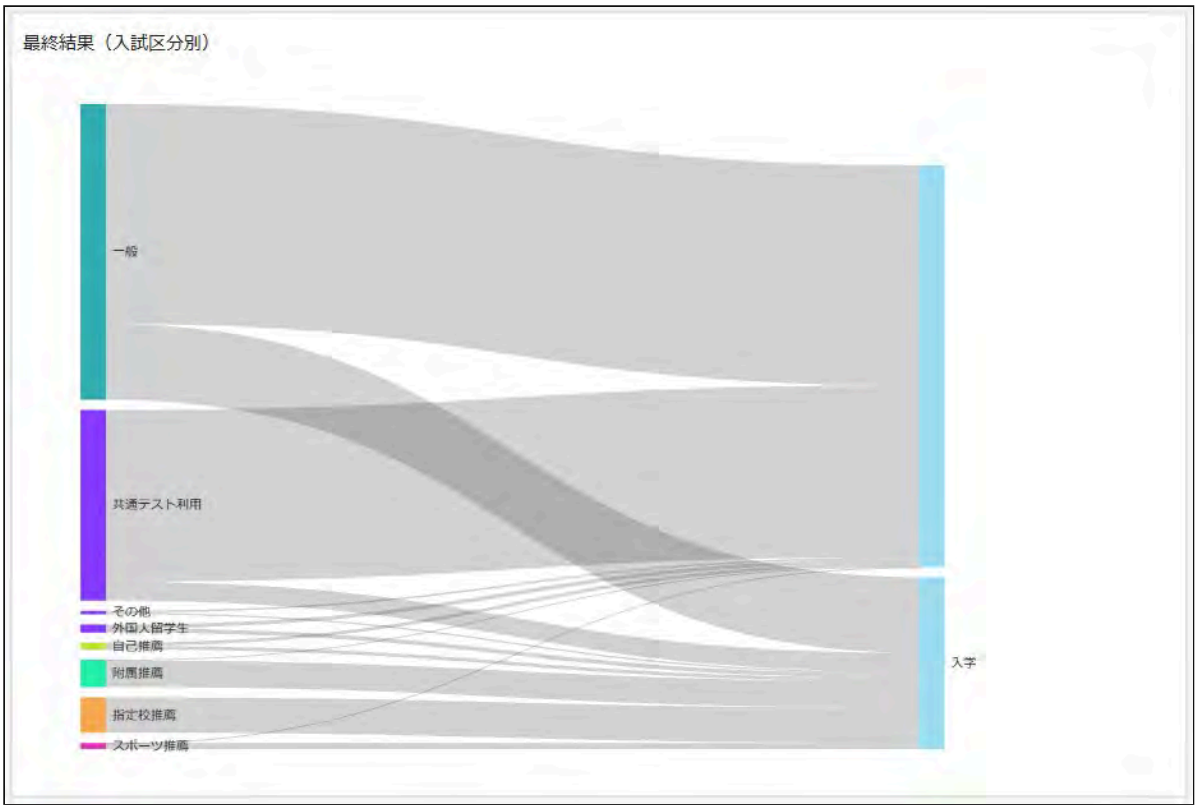
- EUに関して特定の分野でより理解が深まった
- 映画などの作品を視聴し、日本のジェンダー問題についての知見が深まった。

2.6 回答者の個人属性との関係

2021年度〜2024年度入学生に関する回答者の個人属性（入試区分、出身高校ランク）と、授業アンケートや成績との関係を分析しました。

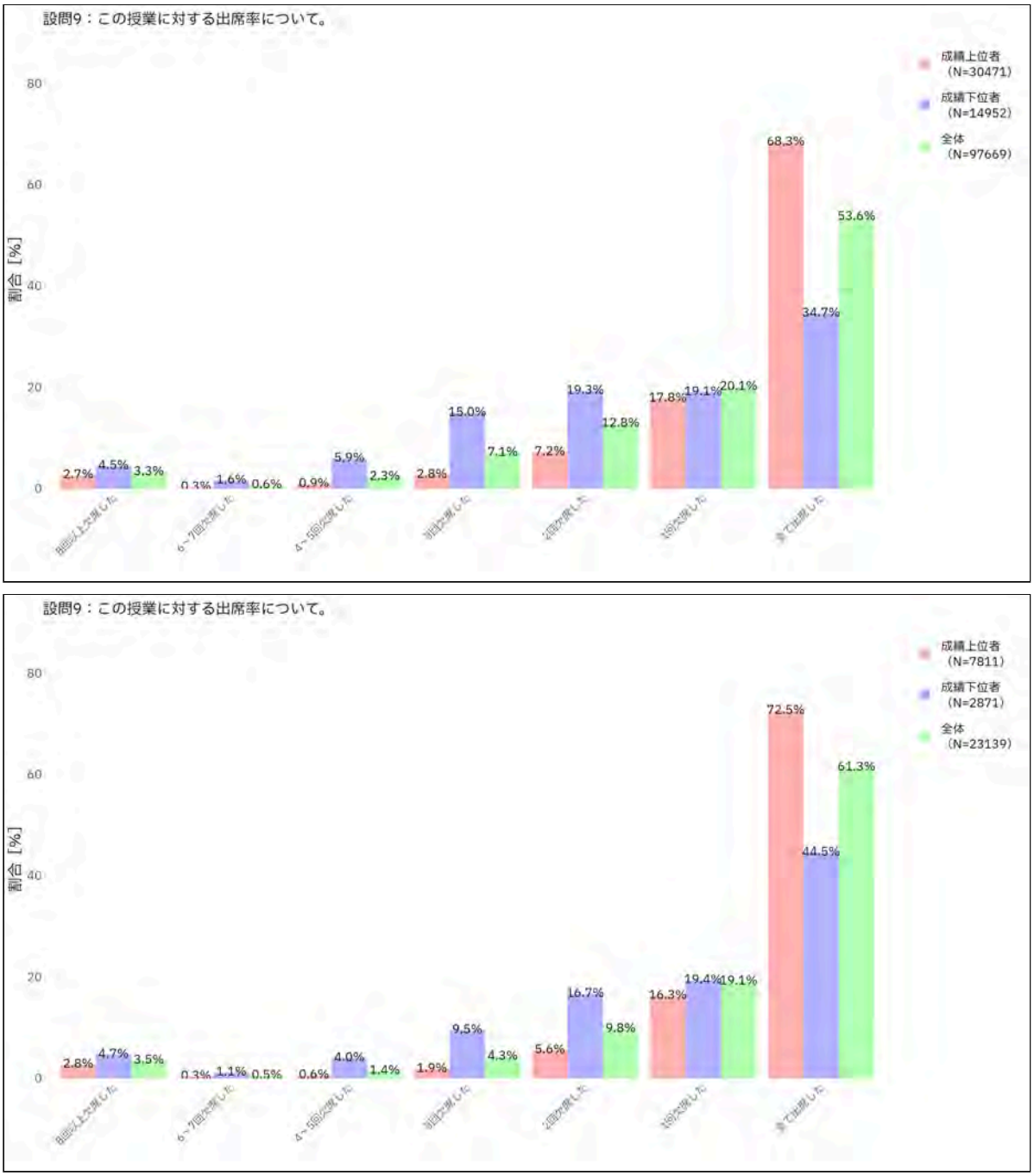
2.6.1 入試区分別の比較

まずは入試区分別の入学歩留まりを示します。一般入試では約25%が入学、共通テスト利用では約10%が最終的に入学を決定しています。また外国人留学生および自己推薦は50%強、他の推薦入試ではおよそ全数が入学を決定しました。



図：入試区分別入学歩留まり（IRQuAより）

ここで、合格した全員が入学を決定した指定校推薦の学生に注目すると、全体と比較して設問9（この授業に対する出席率について）における「全て出席した」の回答割合がやや高くなっています。ただしスピアマンの順位相関係数は $r = 0.09$ と低いため、指定校推薦の学生は出席数が多いというよりも、休みなく出席する学生の割合が多い、というのが正確な表現かもしれません。これまでの授業アンケート分析の結果にも見られたように、**指定校推薦の学生は授業に対して真面目**に取り組む傾向があるようです。



図：（上）全体の設問9の回答分布／（下）入試区分が「指定校推薦」の学生の、設問9の回答分布

2.6.2　省略

2.7 学習支援制度の利用状況と授業アンケート結果の関係

授業アンケートとは別に、在学生には毎年春に在学生アンケートを実施しています。在学生アンケートには学習支援制度の利用状況を調査する、下表の設問が含まれています。今回の分析では、在学生アンケートの回答者と授業アンケートの回答者を紐付けて収集し、2つのアンケートの回答間の関係を分析しました。

表：在学生アンケートのうち、学習支援制度の利用状況を問う設問

設問項目	回答選択肢
学習支援や学習サポートの制度・仕組みについて、過去１年間の利	1. クラス担任、クラスアドバイザー、アカデミックアドバイザー等の制度

設問項目	回答選択肢
用経験があるものをすべて選択してください。	2. 所属するゼミや研究室の教員への相談 3. その他、教員への相談 4. 教員のオフィスアワー 5. 学部事務室における履修相談 6. アカデミック・サポートセンター（ライティング・ラボ）

2.7.1 利用率

成績上位者と下位者に分けて、設問の各選択肢の利用率を下表に示します。母数は在学生アンケートにおいて当設問に回答した学生数（成績上位者：N=5,884／成績下位者：N=2,046）です。

なお下表では、回答選択肢の文章が簡略化されています。正確な選択肢の文章は上表をご参照ください。これ以降のグラフに表示される凡例には、すべて簡略化された文章で表記されています。

表：成績上位者と下位者の学習支援制度の利用率

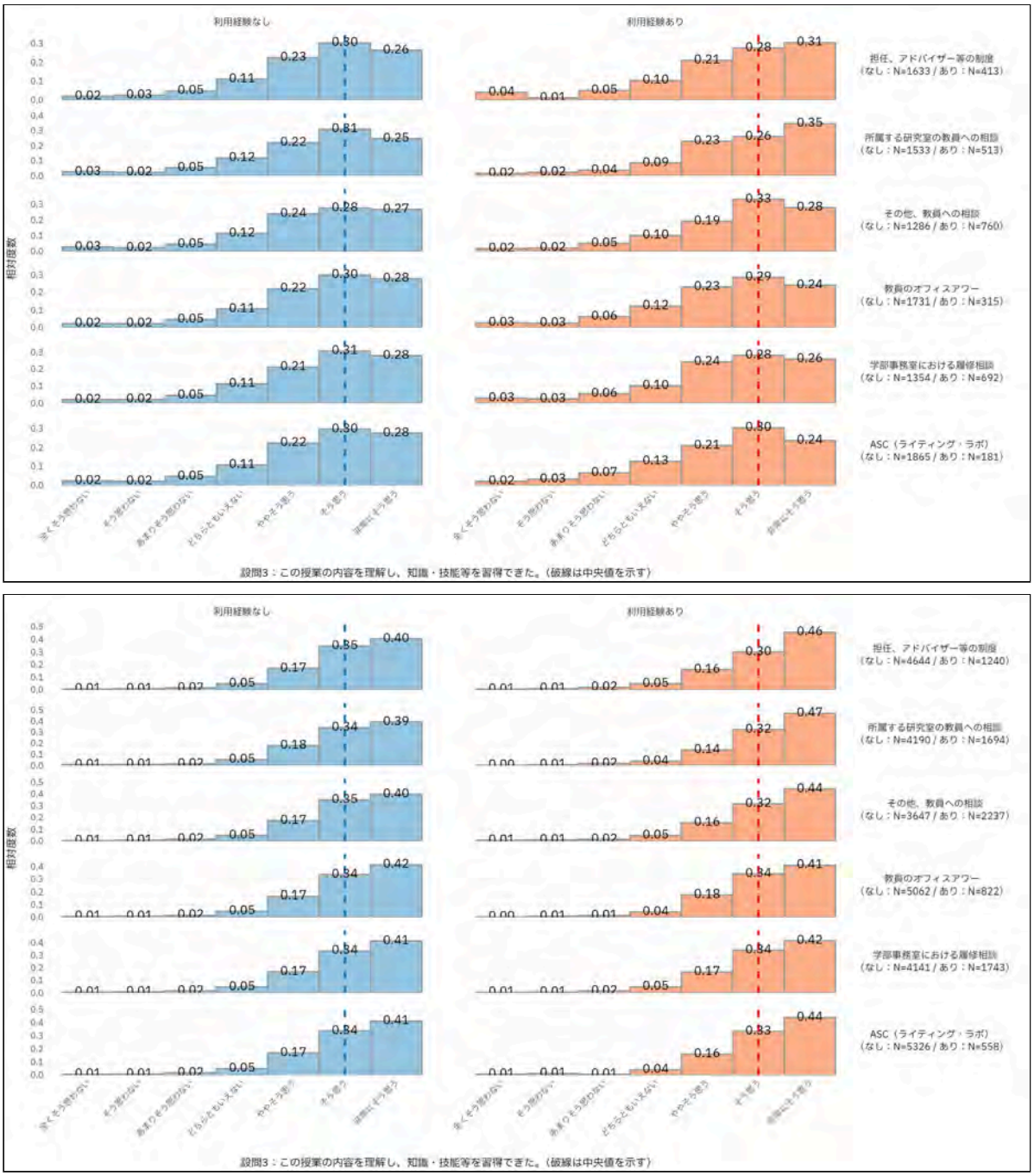
設問の選択肢	成績上位者（N=5,884）	成績下位者（N=2,046）
1. 担任、アドバイザー等の相談	21.1%	20.2%
2. 所属する研究室の教員への相談	28.8%	25.1%
3. その他、教員への相談	**38.0%**	**37.1%**
4. 教員のオフィスアワー	12.8%	15.4%
5. 学部事務室における履修相談	**29.6%**	**33.8%**
6. ASC（ライティング・ラボ）	9.5%	8.8%

成績に関わらず「学部事務室における履修相談」および「その他、教員への相談」が比較的よく利用されているようです。一方で、アカデミックサポートセンターの利用率は成績によらず低いようです。

2.7.2 成績上位者と下位者の、学習支援制度の利用経験と授業アンケート結果

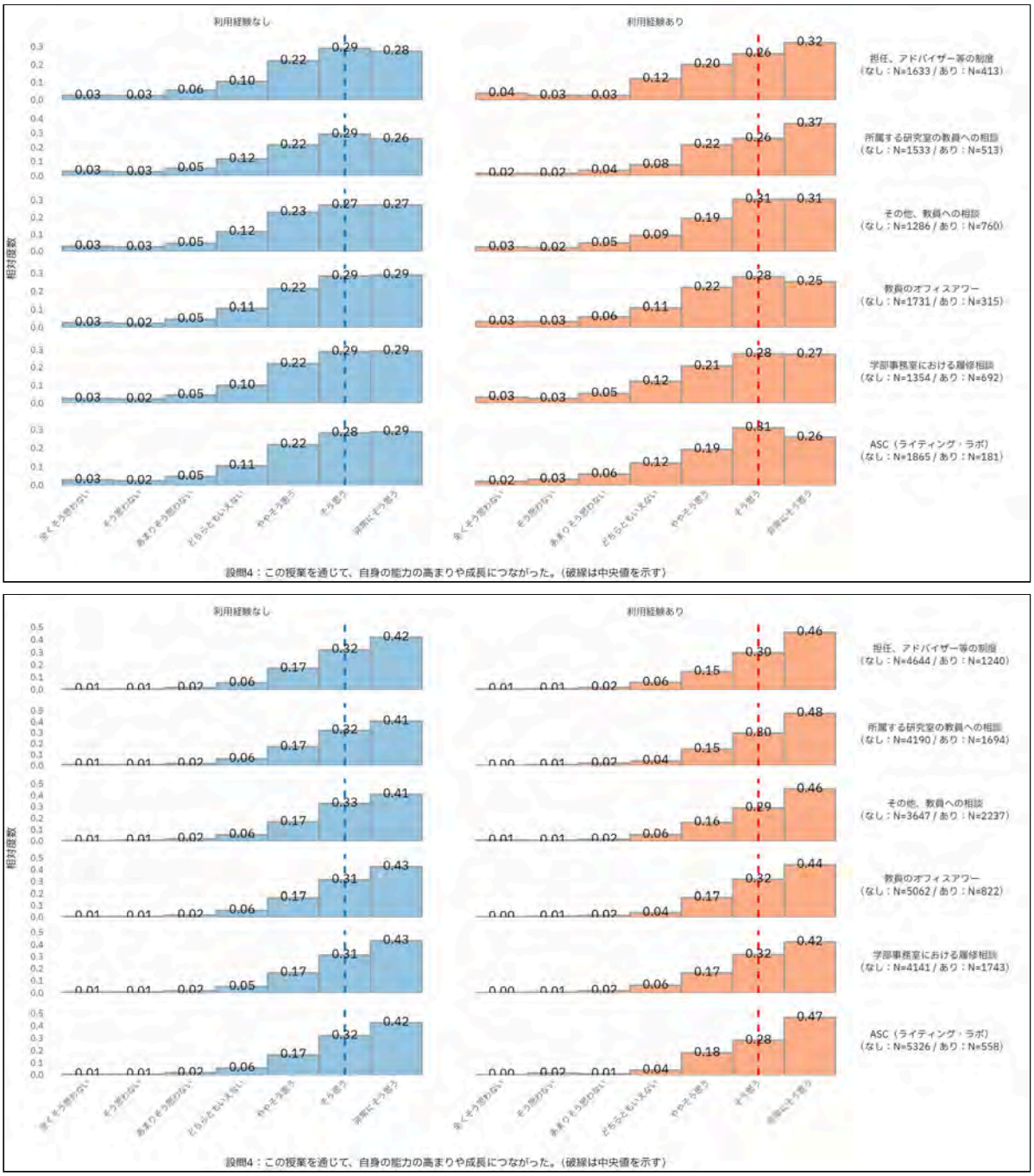
学習支援制度の利用経験の有無が、成長実感（設問3、4）および授業の満足度に関係があるか、成績上位者／下位者別に分析しました。

まずは設問3（この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた）についての回答分布です。特に成績下位者において、学習支援制度の利用の有無で、最頻値が「そう思う」か「非常にそう思う」に分かれているものがあります。例えば「担任、アドバイザー等の相談」と「所属する研究室の教員への相談」は、利用していない場合は「そう思う」が最頻値ですが、利用している場合は「非常にそう思う」が最頻値となっています。**成績下位者にとっては、これら教員等への相談によって、授業内容の理解や知識・技能の習得に対する成長実感が高まった**可能性がありそうです。また成績上位者においても、教員への相談によって「非常にそう思う」と回答した割合が大きくなっていることがうかがえます。



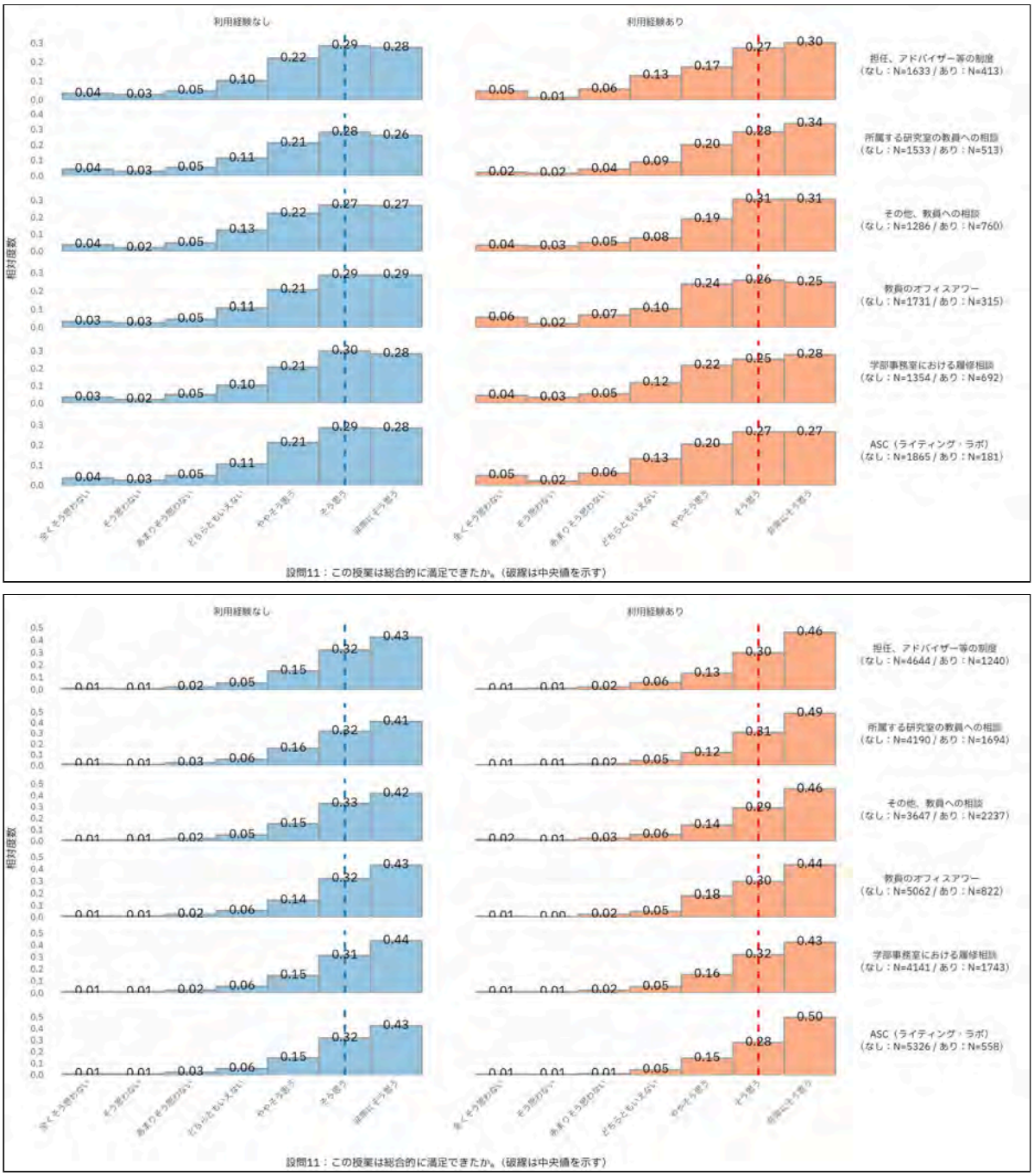
*図：（上）成績**下位**者の学習支援制度の利用経験と設問3の回答分布／（下）成績**上位**者の学習支援制度の利用経験と設問3の回答分布*

同様の傾向が下図の設問4（この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった）の回答分布にも見られます。



*図：（上）成績**下位**者の学習支援制度の利用経験と設問4の回答分布／（下）成績**上位**者の学習支援制度の利用経験と設問4の回答分布*

設問11（この授業は総合的に満足できたか）を見てみると、特に成績上位者において、アカデミックサポートセンターを利用したことがある学生の「非常にそう思う」と回答した割合が高くなっています。アカデミックサポートセンターが、学生自身の学修の質を高めるための基盤として活用されていることがうかがい知れます。

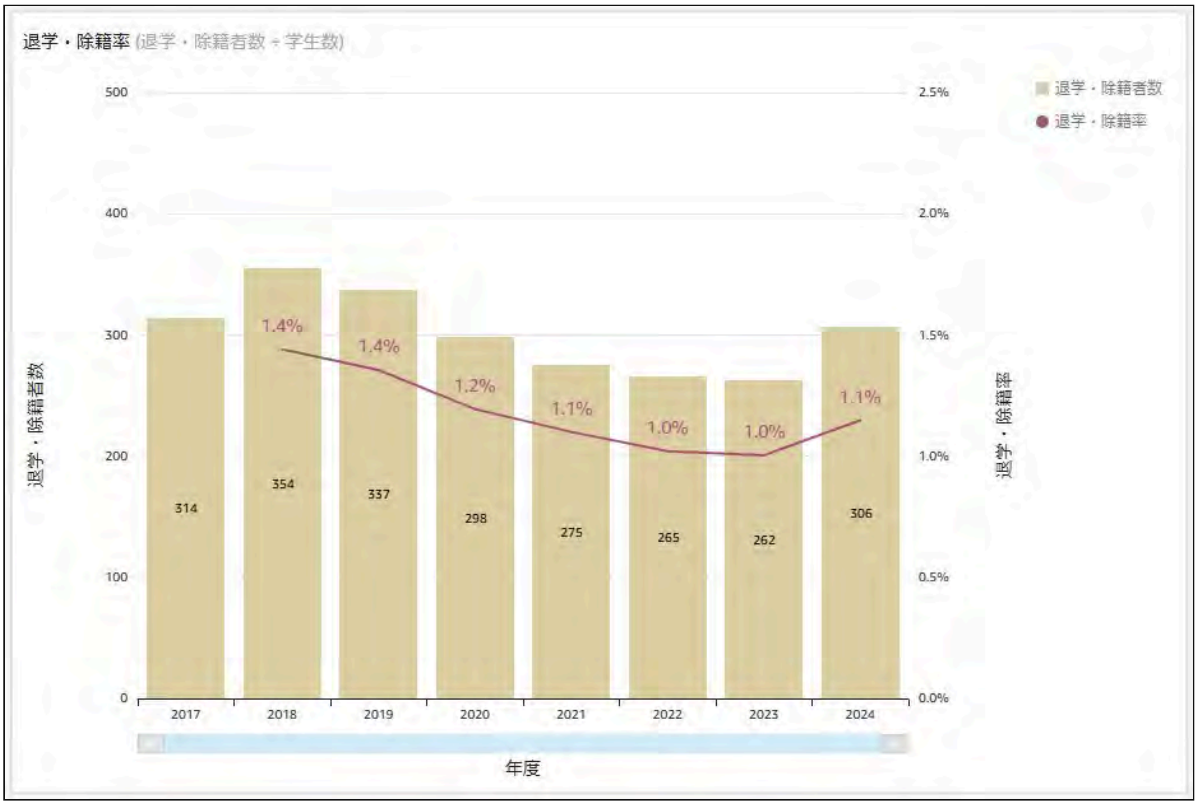


*図：（上）成績**下位**者の学習支援制度の利用経験と設問4の回答分布／（下）成績**上位**者の学習支援制度の利用経験と設問4の回答分布*

3. さいごに

本報告では、2024年度に実施された授業アンケートを対象に分析を行いました。従来の授業アンケートの結果を踏まえつつ、今年度は新たに自由記述の項目にも触れ、授業改善の直接的なヒントを探れたのではないかと思います。

最後に、直近8年分の退学・除籍率の推移を示します。2018年度以降、除籍率は下降の一途でしたが、2024年度は上昇に転じてしまっています。もちろん退学・除籍については様々な理由が考えられますが、授業の質も退学や除籍の要因の一つかもしれません。授業の質を高めることで、学生の学習意欲や学習成果を向上させるだけでなく、退学や除籍の抑制にもいくばくか寄与していきたいところです。



図：過去8年分の退学・除籍率（IRQuAより）

本報告は、あくまで全学的な傾向を捉えたものであり、学部別の傾向まで詳らかに調査したものではありません。全学的な傾向と学部や専攻ごとの傾向は、各教育組織の特性により異なることが予想されます。また、より詳細なデータを加えた分析、例えば授業の受講人数や学生自身の特性などを踏まえた分析により、さらにカリキュラム改善などにつながる議論が期待されます。本報告を基に、ぜひ学部の中でより深い分析を進めていただき、因果関係などを見出し、教育改善に向けた議論を深めていただければ幸いです。

附録

本報告書中で使用した自由記述の分析に関して、LLM等の情報を掲載します。

- 使用したLLM：`lmstudio-community/gemma-3-4B-it-qat-GGUF`
- パラメータ
  - `temperature`：0.1
  - `max_tokens`：32768（うちresponseの最大トークン数：2048）
  - `min_p`：0.05
  - `top_p`：0.95

    - `top_k`: 40
    - `repetition_penalty`: 1.1
    - `batch_size`：2048
- プロンプト
    - role:

      ```
      あなたは大学の職員です。学生から収集した授業アンケートを分析する専門家です。
      ```

    - message:

```
あなたのタスクは、大学の授業アンケートで収集した自由記述の回答を要約することです。様々な観点の記述をトピックごとに分別し、学生が授業に対してどのような意見を持っているか、意見の多い順に示してください。
このタスクは、以下の要領で行います。

# 入力データ
あなたには、設問の内容と、自由記述の回答が与えられます。設問の内容は「設問」セクションに、自由記述の回答は「回答」セクションに1行ずつ、それぞれ提示されます。

# 手続き
1. 設問の内容を確認してください。
2. 回答セクションの自由記述の内容を、5つ程度のトピックに分けてください。5つちょうどである必要はありませんが、あまり多くなりすぎないようにしてください。
3. 2.で分けたトピックを、回答数が多い順に並び替えてください。
4. 3.の順に各トピックについて、トピックの説明を行ってください。また各トピックを代表する具体例として、3つまで自由記述の内容を引用してください。引用の際は、自由記述の内容をそのまま引用してください。このとき、以下の注意事項を厳守してください。
- 誹謗中傷を含んだり、個人を特定できたりする回答があった場合は、その回答をトピックや要約に含めないこと。
- 具体例を引用する際に、自由記述の内容は一切修正しないこと。
- 要約ができないほど回答数が少ない場合は、トピック数を少なくしたり、もしくはトピックに分けることもトピックの要約も行わず、回答数が少ないことを示したりすること。
- 勝手に新しい回答を増やさないこと。
- 「なし」「特になし」などの内容がない回答は、トピックに分けず、また、トピックの具体例にも含めないこと。
5. トピックごとに、箇条書きで以下の内容を出力してください。パイプ文字 | を使ってはいけません。
- トピックの名前
- トピックの説明
- トピックを代表する具体例（3つまで）

# 要約タイトル
要約のタイトルは「授業アンケートの自由記述回答の要約」です。授業内容、例えば社会学、経営学、プログラミング入門ごとの要約ではありません。あくまで「設問」セクションに記載の設問全体の要約であることに注意してください。

# 設問
{設問文}

# 回答
{自由記述の回答}
```

なお最大トークン数の関係上、このプロンプトに渡した自由記述のデータは1,000件ずつであり、1,000件を超える自由記述に対しても同じプロンプトを実行しました。その後、全ての処理結果を分析者（佐々木）が確認し、トピックの分類や具体例の選定を行いました。また具体例についてはハルシネーションによる実在しない回答が出力されることもあったため、分析者が実在する回答のみを選定しました。

また、本報告で利用したローカルLLMの実行アプリケーションであるLM Studio（Ver.0.3.16 (Build 8)）では、出力にMarkdown形式の表（パイプ文字 `|` が使用されるもの）が出力された際に処理が正常に行われないパターンが発生したため、パイプ文字が出力された際に、アプリケーション側でテキストの生成を強制停止

させる処理を行いました。これは使用したモデルならびにアプリケーションに起因する問題であるため、プロンプト等を修正することによってこの問題を解消することはできませんでしたが、本報告書中でまとめたトピックの抽出や要約に関しては、分析者が実データを目視で確認し、およそ妥当であることを確認しています。